

## 参考資料2 アンケート調査結果

### 目次

|                                       |           |
|---------------------------------------|-----------|
| <b>1. 調査概要</b> .....                  | <b>2</b>  |
| 1.1 目的.....                           | 2         |
| 1.2 調査方法.....                         | 2         |
| <b>2. アンケート結果</b> .....               | <b>11</b> |
| 2.1 回収状況.....                         | 11        |
| 2.2 区民向けアンケート.....                    | 12        |
| <b>3. アンケート結果のまとめ</b> .....           | <b>14</b> |
| 3.1 「生物多様性」に対する意識.....                | 14        |
| 3.2 生物多様性地域戦略や生きものと共生するまちづくりへの関心..... | 17        |
| 3.3 戦略に期待すること.....                    | 18        |
| 3.4 身近な自然環境に対する意識.....                | 19        |
| 3.5 外来生物への意識.....                     | 22        |
| 3.6 暮らしと生物多様性に関わる意識.....              | 24        |
| 3.7 身近な環境問題.....                      | 26        |
| 3.8 環境活動への意識.....                     | 27        |
| 3.9 良好な環境づくりの取り組み主体の考え.....           | 30        |
| 3.10 区民の環境活動への意識と活動状況.....            | 30        |
| 3.11 事業者における活動状況.....                 | 33        |
| 3.12 教育機関における活動状況.....                | 38        |
| 3.13 小学校5年生における自然との関わりや意識.....        | 44        |
| 3.14 中学校2年生における自然との関わりや意見.....        | 48        |

## 1. 調査概要

### 1.1 目的

港区生物多様性地域戦略を策定の基礎資料とするため、生物多様性、自然環境及び環境施策についての区民等の意識及び課題を把握するとともに、戦略実施の周知及び参加意識の向上を図り、戦略策定における意見を広く収集することを目的とし、区民、事業者、教育機関及び区立小・中学校児童・生徒を対象とした意識調査を実施しました。

### 1.2 調査方法

#### 1.2.1 アンケートの種類

アンケートは、対象に応じて質問内容や時期を変えて実施しました。アンケートの種類は次のとおりです。

表 1-1 アンケートの種類

| No. | アンケートの種類     |
|-----|--------------|
| 1   | 区民向けアンケート    |
| 2   | 外国人向けアンケート   |
| 3   | 事業者向けアンケート   |
| 4   | 教育機関向けアンケート  |
| 5   | 児童・生徒向けアンケート |

#### 1.2.2 区民向けアンケート

区民向けアンケートの実施状況は以下のとおりです。

| タイトル      | 港区の自然環境と暮らしについてのアンケート調査 |                              |
|-----------|-------------------------|------------------------------|
| 対象者及び対象人数 | 区民                      | 2,000人                       |
|           | 環境課事業の参加者               | 138人                         |
| 調査手法      | 区民                      | 配布：郵送 回収：返信用封筒（郵送）           |
|           | 環境課事業の参加者               | 配布：郵送 回収：返信用封筒（郵送）           |
| 抽出方法      | 区民                      | 住民基本台帳より無作為に抽出               |
|           | 環境課事業の参加者               | 環境課事業参加者名簿より全員を抽出            |
| 調査期間      | 区民                      | 平成24年10月1日（月）～平成24年10月15日（月） |
|           | 環境課事業の参加者               | 平成24年10月1日（月）～平成24年10月15日（月） |

区民向けアンケートの設問内容は以下のとおりです。

| 設問番号  | 設問形式 | 設問内容                               |
|-------|------|------------------------------------|
| 問 1   | 単数回答 | 港区の自然環境に対する意識                      |
| 問 2   | 複数回答 | 身近に緑や生きものを感じられる環境                  |
| 問 3   | 自由記述 | 最近みられなくなった生きものや自然の様子               |
| 問 4   | 複数回答 | 港区の自然環境を改善するためには                   |
| 問 5   | 自由記述 | 港区の身近な生きもの                         |
| 問 6   | 単数回答 | 外来生物問題に対する認識                       |
| 問 7   | 自由記述 | 身近にみられる外来生物に対する認識                  |
| 問 8   | 単数回答 | 「生物多様性」という言葉の理解                    |
| 問 9   | 自由記述 | 「生物多様性」とかかわりがあると考えていること            |
| 問 1 0 | 単数回答 | 「生物多様性」を守ることにに対する認識                |
| 問 1 1 | 単数回答 | 戦略づくりへの参加意識                        |
| 問 1 2 | 自由記述 | 戦略づくりへの期待                          |
| 問 1 3 | 複数回答 | 港区の環境に関する施設や施策に対する認識               |
| 問 1 4 | 複数回答 | 優先的に取り組んでほしい環境施策                   |
| 問 1 5 | 単数回答 | 野生の生きものと共生できる環境づくりに取り組む上で、重要だと思う主体 |
| 問 1 6 | 単数回答 | 環境の保全と生活の便利さの優先度                   |
| 問 1 7 | 単数回答 | 暮らしと野生の生きものの距離感                    |
| 問 1 8 | 単数回答 | 暮らしの中で感じる、自然資源に対する意識               |
| 問 1 9 | 自由記述 | 地域で感じている環境問題                       |
| 問 2 0 | 複数回答 | 環境に関連した活動経験の有無及び参加を希望する取り組み        |
| 問 2 1 | 単数回答 | 環境に関連した活動に参加しない理由                  |
| 問 2 2 | 自由記述 | 環境に関連した活動の参加者を増やすためには              |
| 問 2 3 | 自由記述 | 参加または主催している環境に関連した活動               |

### 1.2.3 外国人向けアンケート

|               |   |
|---------------|---|
| タイトル          | 港区の自然環境と暮らしについてのアンケート調査                             |
| 対象者及び<br>対象人数 | 200人  |
| 調査手法          | 配布：郵送 回収：返信用封筒（郵送）<br>※外国人用の設問を設定したうえで、英訳した調査用紙を送付。 |
| 抽出方法          | 外国人名簿より無作為に抽出                                       |
| 調査期間          | 平成24年11月15日（木）～平成24年11月30日（水）                       |

外国人向けアンケートの設問内容は以下のとおりです。

| 設問番号  | 設問形式 | 設問内容                               |
|-------|------|------------------------------------|
| 問 1   | 単数回答 | 港区の自然環境に対する意識                      |
| 問 2   | 単数回答 | 自国と比べたときの港区の自然環境の豊かさ               |
| 問 3   | 複数回答 | 身近に緑や生きものを感じられる環境                  |
| 問 4   | 自由記述 | 最近みられなくなった生きものや自然の様子               |
| 問 5   | 複数回答 | 港区の自然環境を改善するためには                   |
| 問 6   | 自由記述 | 港区の身近な生きもの                         |
| 問 7   | 単数回答 | 外来生物問題に対する認識                       |
| 問 8   | 単数回答 | 自国で外来生物として問題になっている生きもの             |
| 問 9   | 自由記述 | 身近にみられる外来生物に対する認識                  |
| 問 1 0 | 単数回答 | 「生物多様性」という言葉の理解                    |
| 問 1 1 | 自由記述 | 「生物多様性」とかかわりがあると考えていること            |
| 問 1 2 | 単数回答 | 「生物多様性」を守ることにに対する認識                |
| 問 1 3 | 単数回答 | 戦略づくりへの参加意識                        |
| 問 1 4 | 自由記述 | 戦略づくりへの期待                          |
| 問 1 5 | 複数回答 | 港区の環境に関する施設や施策に対する認識               |
| 問 1 6 | 複数回答 | 優先的に取り組んでほしい環境施策                   |
| 問 1 7 | 単数回答 | 野生の生きものと共生できる環境づくりに取り組む上で、重要だと思う主体 |
| 問 1 8 | 単数回答 | 環境の保全と生活の便利さの優先度                   |
| 問 1 9 | 単数回答 | 暮らしと野生の生きものの距離感                    |
| 問 2 0 | 単数回答 | 暮らしの中で感じる、自然資源に対する意識               |
| 問 2 1 | 自由記述 | 地域で感じている環境問題                       |
| 問 2 2 | 複数回答 | 環境に関連した活動経験の有無及び参加を希望する取り組み        |
| 問 2 3 | 自由記述 | 環境に関連した活動の情報入手方法                   |
| 問 2 4 | 単数回答 | 環境に関連した活動に参加しない理由                  |
| 問 2 5 | 自由記述 | 環境に関連した活動における外国人の参加者を増やすための支援      |
| 問 2 6 | 自由記述 | 自国における環境に関連した活動や取組                 |
| 問 2 7 | 自由記述 | 参加または主催している環境に関連した活動               |

### 1.2.4 事業者向けアンケート

事業者向けアンケートの実施状況は以下のとおりです。

|          |                       |   |
|----------|-----------------------|---|
| タイトル     | 自然環境と事業活動についてのアンケート調査 |   |
| 対象者及び対象数 | 大企業                   | 351 法人                                  |
|          | みなと環境にやさしい事業者会議       | 67 法人                                   |
|          | 商店街会長                 | 58 人                                    |
|          | 環境課事業の参加企業            | 101 法人                                  |
| 調査手法     | 大企業                   | 配布：郵送 回収：返信用封筒（郵送）                      |
|          | みなと環境にやさしい事業者会議       | 配布：メールリスト<br>回収：返信用ファイル（返信メールに添付）       |
|          | 商店街会長                 | 配布：郵送 回収：返信用封筒（郵送）                      |
|          | 環境課事業の参加企業            | 配布：郵送 回収：返信用封筒（郵送）                      |
| 抽出方法     | 大企業                   | 東京証券取引所及び大阪証券取引所に上場しており、港区に所在地を置く事業者を抽出 |
|          | みなと環境にやさしい事業者会議       | みなと環境にやさしい事業者会議参加企業名簿より抽出               |
|          | 商店街会長                 | すべての港区商店街連合会加盟店会の会長を抽出                  |
|          | 環境課事業の参加企業            | 環境課事業参加企業名簿より抽出                         |
| 調査期間     | 大企業                   | 平成24年10月1日（月）<br>～平成24年10月15日（月）        |
|          | みなと環境にやさしい事業者会議       |   |
|          | 商店街会長                 |   |
|          | 環境課事業の参加企業            |   |

※大企業とみなと環境に事業者会議の両方に該当する企業は、みなと環境に優しい事業者会議として扱いました。

事業者向けアンケートの設問内容は以下のとおりです。

| 設問番号  | 設問形式         | 設問内容                             |
|-------|--------------|----------------------------------|
| 問 1   | 複数回答         | 港区の環境に関する施設や施策に対する認識             |
| 問 2   | 単数回答         | 「生物多様性」という言葉の理解                  |
| 問 3   | 単数回答         | 「生物多様性」と事業活動の関連性                 |
| 問 4   | 単数回答         | 戦略づくりへの関心                        |
| 問 5   | 複数回答<br>自由記述 | 生物多様性を保全するために取り組んでいる、または取り組みたい内容 |
| 問 6   | 複数回答         | 生物多様性を保全するための取り組みの動機             |
| 問 7   | 単数回答         | 生物多様性に関する取り組みについての考え方            |
| 問 8   | 複数回答         | 生物多様性に関する取り組みを進める上での課題           |
| 問 9   | 複数回答<br>自由記述 | 生物多様性に関する取り組みを進める上での必要な支援        |
| 問 1 0 | 単数回答         | 生物多様性に関する取り組みをアピールする意識           |
| 問 1 1 | 自由記述         | ピーアールしたい生物多様性に関する取り組み            |
| 問 1 2 | 自由記述         | 生物多様性に関する取り組みを進める上での意見や要望        |

### 1.2.5 教育機関向けアンケート

教育機関向けアンケートの実施状況は以下のとおりです。

|              |                          |                                   |
|--------------|--------------------------|-----------------------------------|
| タイトル         | 港区の自然環境と環境教育についてのアンケート調査 |                                   |
| 対象者及び<br>対象数 | 国立・私立大学(短期大学を含む)         | 9校                                |
|              | 国立・都立・私立高等学校             | 18校                               |
|              | 区立・私立中学校                 | 22校                               |
|              | 区立小学校                    | 19校                               |
|              | 区立・私立幼稚園                 | 26園                               |
|              | 区立認可・私立保育園               | 19園                               |
|              | 都立・私立特別支援学級              | 2校                                |
| 調査手法         | 区立教育機関                   | 配布：交換便 回収：返信用封筒（交換便）              |
|              | 区立以外の教育機関                | 配布：郵送 回収：返信用封筒（郵送）                |
| 抽出方法         | 港区に存在するすべての教育機関を抽出       |                                   |
| 調査期間         | 区立教育機関                   | 平成24年10月15日（月）<br>～平成24年10月30日（火） |
|              | 区立以外の教育機関                | 平成24年10月1日（月）<br>～平成24年10月15日（月）  |

教育機関向けアンケートの設問内容は以下のとおりです。

| 設問番号  | 設問形式         | 設問内容                      |
|-------|--------------|---------------------------|
| 問 1   | 単数回答         | 「生物多様性」という言葉の理解           |
| 問 2   | 単数回答         | 環境教育の重要性に対する意識            |
| 問 3   | 複数回答<br>自由記述 | 取り組んでいる、または取り組みたい環境教育の内容  |
| 問 4   | 複数回答         | 環境教育を進める上での課題             |
| 問 5   | 複数回答<br>自由記述 | 生物多様性に関する取り組みを進める上での必要な支援 |
| 問 6   | 単数回答         | 環境教育をアピールする意識             |
| 問 7   | 自由記述         | ピーアールしたい生物多様性に関する取り組み     |
| 問 8   | 単数回答         | 外来生物に関する教育の有無             |
| 問 9   | 単数回答         | 外来生物を教材として使用する際の考え方       |
| 問 1 0 | 複数回答         | 港区の環境に関する施設や施策に対する認識      |
| 問 1 1 | 複数回答         | 今後、優先的に取り組んでほしい環境施策       |
| 問 1 2 | 単数回答         | 生きものと共存するまちづくりに対する関心      |
| 問 1 3 | 自由記述         | 環境教育に取り組む上での意見や要望         |

### 1.2.6 児童・生徒向けアンケート

児童・生徒向けアンケートの実施状況は以下のとおりです。

|               |  |            |
|---------------|--|------------|
| タイトル          | 遊びや自然についてのアンケート調査                        |            |
| 対象者及び<br>対象人数 | 区立小学校5年生                                 | 19校：1,124人 |
|               | 区立中学校2年生                                 | 10校：636人   |
| 調査手法          | 配布：学校経由 回収：返信用封筒（交換便）                    |            |
| 抽出方法          | 港区に存在するすべての区立小・中学校のうち、小学校5年生及び中学校2年生の全生徒 |            |
| 調査期間          | 平成24年10月15日（月）～平成24年11月30日（金）            |            |

児童・生徒向けアンケートの設問内容は以下のとおりです。

| 設問番号 | 設問形式         | 設問内容                              |
|------|--------------|-----------------------------------|
| 問1   | 自由記述         | 好きな遊び                             |
| 問2   | 複数回答<br>自由記述 | これまでにしたことがある、これからしてみたい屋外での遊びや自然体験 |
| 問3   | 自由記述         | 港区で大切にしたい自然のある場所とその理由             |
| 問4   | 自由記述         | 20年後、港区がどうなっていると思うか               |
| 問5   | 単数回答         | 「生物多様性」という言葉の理解                   |

## 2. アンケート結果

### 2.1 回収状況

各種アンケートの回収状況は以下のとおりです。

| 種類      | 対象              | 配布数   | 回収数   | 回収率   |
|---------|-----------------|-------|-------|-------|
| 区民向け    | 日本国籍の区民         | 2,000 | 359   | 18.0% |
|         | 環境課事業の参加者       | 138   | 46    | 33.3% |
| 全体      |                 | 2,338 | 413   | 17.7% |
| 外国人向け   | 外国国籍の外国人        | 200   | 9     | 4.5%  |
| 全体      |                 | 200   | 9     | 4.5%  |
| 事業者向け   | 大企業             | 351   | 54    | 15.4% |
|         | みなと環境にやさしい事業者会議 | 67    | 11    | 16.4% |
|         | 商店街会長           | 58    | 23    | 39.7% |
|         | 環境課事業の参加企業      | 101   | 40    | 39.6% |
| 全体      |                 | 577   | 128   | 22.2% |
| 教育機関向け  | 大学              | 9     | 2     | 22.2% |
|         | 高校              | 18    | 4     | 22.2% |
|         | 中学校             | 22    | 12    | 54.5% |
|         | 中高一貫校           | —     | 5     | —     |
|         | 小学校             | 21    | 19    | 81.0% |
|         | 幼稚園             | 26    | 22    | 76.9% |
|         | 保育園             | 19    | 12    | 16.4% |
|         | その他（特別支援養護学校）   | 2     | 1     | 50.0% |
| 全体      |                 | 117   | 77    | 62.4% |
| 児童・生徒向け | 小学校             | 1,124 | 822   | 73.1% |
|         | 中学校             | 636   | 533   | 83.8% |
| 全体      |                 | 1,760 | 1,355 | 77.0% |

※中高一貫校の回収数は、中高一貫校として返信のあった外数です。

## 2.2 区民向けアンケート

### 【無作為抽出によるアンケート調査の回答者の属性】

無作為抽出をしたアンケートについて、回答者がどのような母集団を代表しているかを検討するために、今回のアンケート回答者の構成について、母集団である平成24年度9月1日現在の港区の住民基本台帳との間で、独立性検定を行いました。

検定結果、年齢層では、住民基本台帳の構成とは異なるという結果となりました。特に18歳～29歳で回答率が低く、60歳～69歳、70歳以上で回答率が高いといった違いがみられました。また、性別でも住民基本台帳とは割合が異なっており、特に59歳以下の男性で回答率が低く、60歳以上で高いといった違いがみられました。こうした違いは、男性の仕事の忙しさに起因していると思われます。

一方、居住地の構成は、麻布地区の男性で高く、女性で低い傾向がみられましたが、住民基本台帳との構成に違いは認められませんでした。

以上から、今回のアンケートの回答者は、年代と性別では一部代表性が認められないものとなりました。しかし、一般的にアンケート調査ではこうした偏りが生じることはやむを得ない状況であり、ここでは偏りを前提として集計を行いました。

表 2-1 港区人口およびアンケート回答者の年齢層別人数

| 年齢層     | 港区人口  |       |       | アンケート回答者 |       |       |
|---------|-------|-------|-------|----------|-------|-------|
|         | 総数    | 男     | 女     | 総数       | 男     | 女     |
| 18歳～29歳 | 19.2% | 19.7% | 18.8% | 10.3%    | 9.9%  | 10.5% |
| 30歳～39歳 | 23.2% | 23.8% | 22.8% | 20.6%    | 15.7% | 23.1% |
| 40歳～49歳 | 20.8% | 21.8% | 19.9% | 16.6%    | 16.5% | 16.6% |
| 50歳～59歳 | 12.2% | 12.8% | 11.7% | 14.3%    | 7.4%  | 17.9% |
| 60歳～69歳 | 11.3% | 11.2% | 11.4% | 17.1%    | 21.5% | 14.4% |
| 70歳以上   | 13.2% | 10.7% | 15.4% | 21.7%    | 28.9% | 17.5% |
| 対象者総数   | 100%  | 100%  | 100%  | 100%     | 100%  | 100%  |

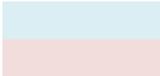
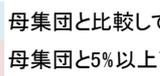
 母集団と比較して5%以上低い  
 母集団と5%以上高い

表 2-2 港区人口およびアンケート回答者の年齢層別の対象者総数に対する割合

| 区分           | 港区人口   |         |         | アンケート回答者 |     |     |
|--------------|--------|---------|---------|----------|-----|-----|
|              | 男      | 女       | 計       | 男        | 女   | 計   |
| 芝地区総合支所管内    | 16,537 | 17,941  | 34,478  | 18       | 44  | 63  |
| 麻布地区総合支所管内   | 21,506 | 24,869  | 46,375  | 33       | 34  | 67  |
| 赤坂地区総合支所管内   | 14,396 | 17,072  | 31,468  | 13       | 42  | 55  |
| 高輪地区総合支所管内   | 23,742 | 29,476  | 53,218  | 29       | 65  | 95  |
| 芝浦港南地区総合支所管内 | 23,051 | 23,416  | 46,467  | 28       | 45  | 73  |
| 港区総数         | 99,232 | 112,774 | 212,006 | 121      | 230 | 353 |

表 2-3 港区人口およびアンケート回答者の居住地域別人数

| 区分           | 港区人口   |         |         | アンケート回答者 |     |     |
|--------------|--------|---------|---------|----------|-----|-----|
|              | 男      | 女       | 計       | 男        | 女   | 計   |
| 芝地区総合支所管内    | 16,537 | 17,941  | 34,478  | 18       | 44  | 63  |
| 麻布地区総合支所管内   | 21,506 | 24,869  | 46,375  | 33       | 34  | 67  |
| 赤坂地区総合支所管内   | 14,396 | 17,072  | 31,468  | 13       | 42  | 55  |
| 高輪地区総合支所管内   | 23,742 | 29,476  | 53,218  | 29       | 65  | 95  |
| 芝浦港南地区総合支所管内 | 23,051 | 23,416  | 46,467  | 28       | 45  | 73  |
| 港区総数         | 99,232 | 112,774 | 212,006 | 121      | 230 | 353 |

表 2-4 港区人口およびアンケート回答者の居住地域別の対象者総数に対する割合

| 区分           | 港区人口  |       |       | アンケート回答者 |       |       |
|--------------|-------|-------|-------|----------|-------|-------|
|              | 男     | 女     | 計     | 男        | 女     | 計     |
| 芝地区総合支所管内    | 16.7% | 15.9% | 16.3% | 14.9%    | 19.1% | 17.8% |
| 麻布地区総合支所管内   | 21.7% | 22.1% | 21.9% | 27.3%    | 14.8% | 19.0% |
| 赤坂地区総合支所管内   | 14.5% | 15.1% | 14.8% | 10.7%    | 18.3% | 15.6% |
| 高輪地区総合支所管内   | 23.9% | 26.1% | 25.1% | 24.0%    | 28.3% | 26.9% |
| 芝浦港南地区総合支所管内 | 23.2% | 20.8% | 21.9% | 23.1%    | 19.6% | 20.7% |
| 港区総数         | 100%  | 100%  | 100%  | 100%     | 100%  | 100%  |

母集団と比較して5%以上低い  
 母集団と5%以上高い

次頁以降に、区民向けアンケートの設問ごとの結果を示します。

なお、記述式アンケート結果と、年代別のクロス集計結果については、無作為抽出による日本人国籍の区民についてのみ掲載しました。

### 3. アンケート結果のまとめ

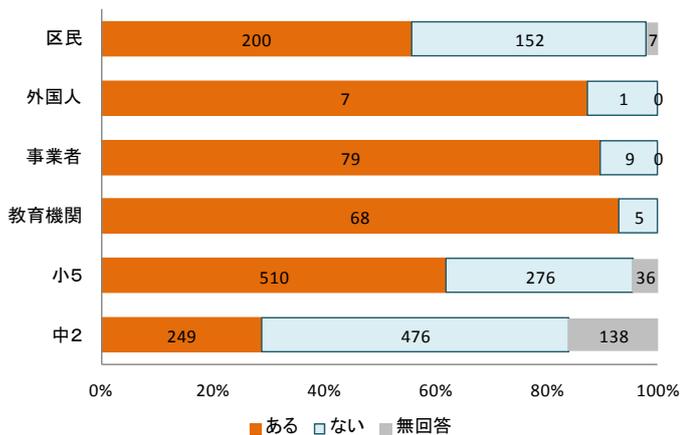
ここでは、区民、外国人、事業者、教育機関、児童・生徒の区分の対象から得られた結果を、設問内容に応じて整理します。

#### 3.1 「生物多様性」に対する意識

##### 3.1.1 生物多様性という言葉の認知度

○全体

これまでに「生物多様性」という言葉を聞いたり、またはその文字を見たことがありますか？  
(単数回答)



生物多様性という言葉は、区民で約5割、事業者および教育機関で約9割において認知されていました。

外国人は、回答数が少なく、この分野に関心の高い方が回答したとも考えられます。

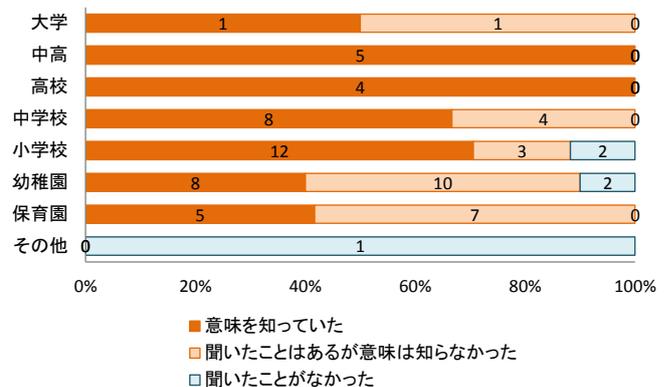
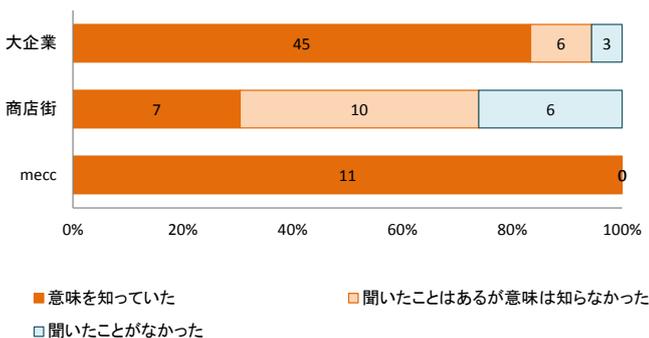
生物多様性という言葉は、区民においては十分に周知されていません。

事業者や教育機関では、言葉の認知度は高いものの、生物多様性の意味までは十分に理解されてはいないと言えます。

また、とくに中学生の認知度が低いことが課題です。

○教育機関

○事業者

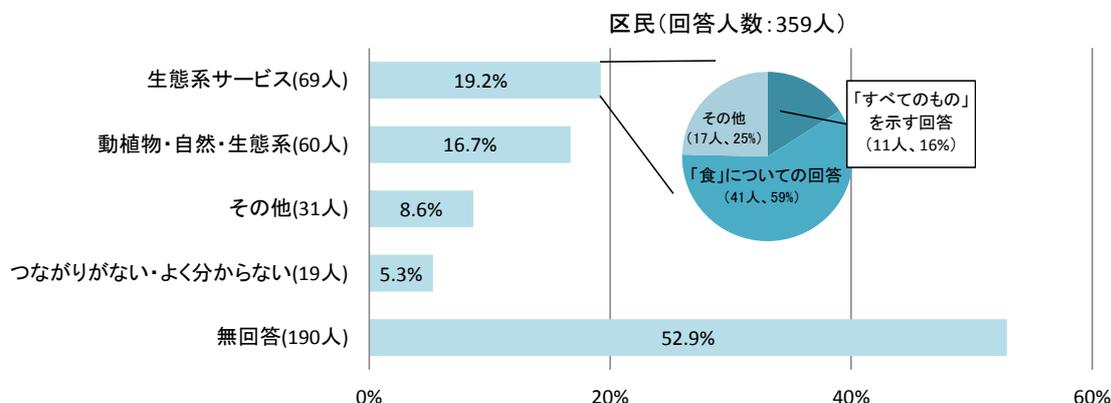


### 3.1.2 関わりのある生物多様性に対する意識

#### ○区民

あなたにとってかかわりのある「生物多様性」を挙げてください。

(自由記述)



アンケートに回答していただいた区民の半数以上が、つながりがない・よくわからないまたは無回答でした。半数以上の区民に、生物多様性の具体的な内容まで理解されていないことがわかりました。それ以外の回答では、生物多様性という広い概念のうち、生態系サービスに関わる回答が多くみられました。なかでも、「食」をはじめとして、薬やエネルギーといった供給サービスを連想する回答が多くみられました。次いで、個々の生物や食物連鎖などの生態系を特徴づけるキーワードを挙げた回答が多くみられました。

これらのことから、区民にとって、生物多様性との接点としてこれらの切り口がわかりやすいと言えます。

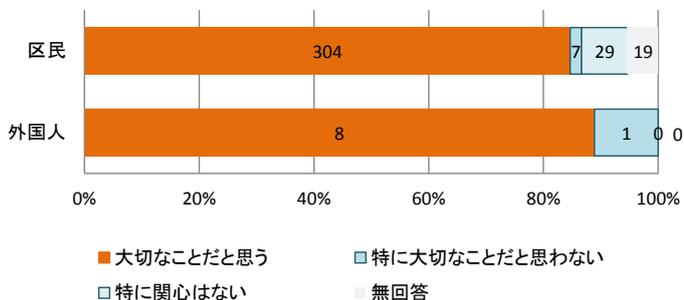
一方、大気循環等の基盤サービス、地域伝統等の文化的サービスや、ヒートアイランド緩和等の調整サービスなどへの生態系サービスへの意識は低いと言えます。

また、犬、猫等のペットを含む身近な動植物を挙げるなど、偏った概念として理解され、暮らしを支える基盤としての生物多様性の理解が十分に浸透していないようです。

### 3.1.3 生物多様性（環境教育）の重要性

○区民・外国人

「生物多様性」を守ることにどう思いますか？  
(単数回答)



8割以上の区民が、生物多様性を守ることが重要と考えています。外国人も同様の傾向があります。

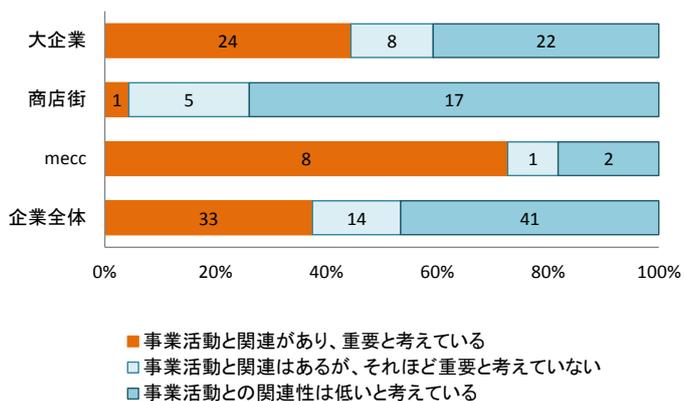
事業者では、事業活動と関連があり重要と考えているとの回答は約4割でした。

教育機関では、ほとんどの回答者は環境教育が重要と捉えていることがわかりました。

事業者では、生物多様性との事業活動との関連が十分に認知されていないと言えます。

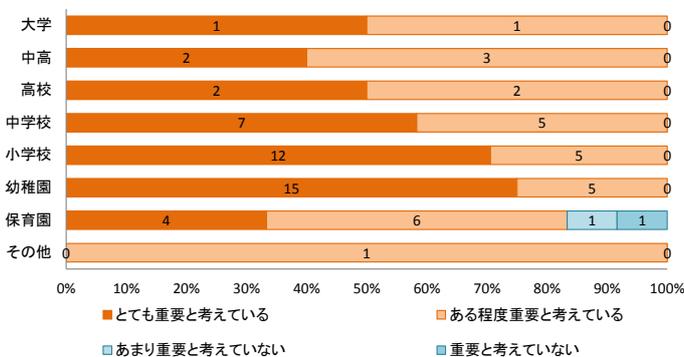
○事業者

生物多様性の保全と持続可能な利用について、  
事業活動との関連性  
(単数回答)



○教育機関

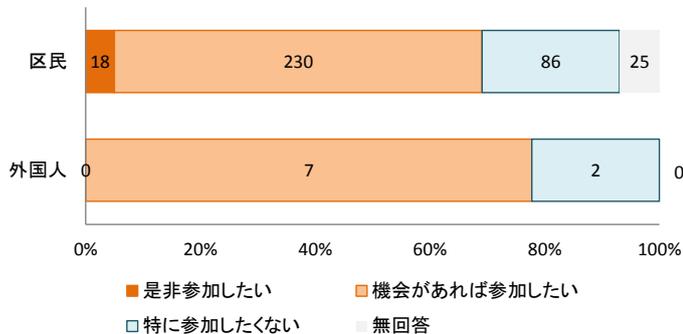
環境教育をどの程度重要と考えているか  
(単数回答)



### 3.2 生物多様性地域戦略や生きものと共生するまちづくりへの関心

#### ○区民

港区の生物多様性地域戦略づくりへの参加への希望  
(単数回答)



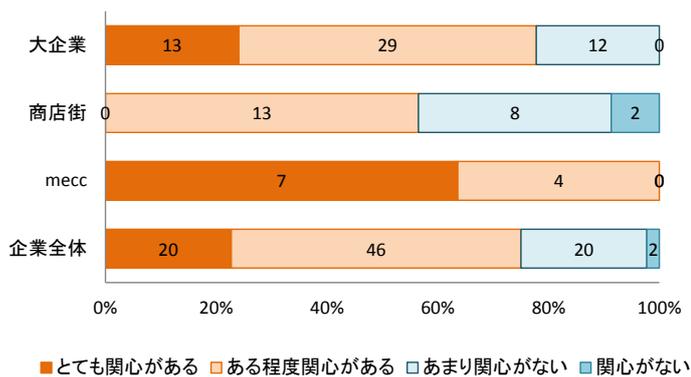
区民では、約7割が生物多様性地域戦略の策定に対して関心があり、「機会があれば参加したい」が多くを占めました。

事業者では、7割以上が、生物多様性地域戦略の策定に対して関心がありました。

教育機関では、8割以上が生きものと共存するまちづくりへの関心がありました。

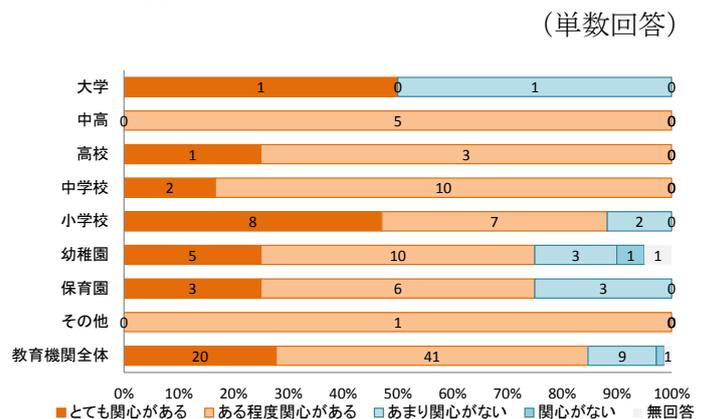
#### ○事業者

生物多様性地域戦略に対する関心の程度  
(単数回答)



#### ○教育機関

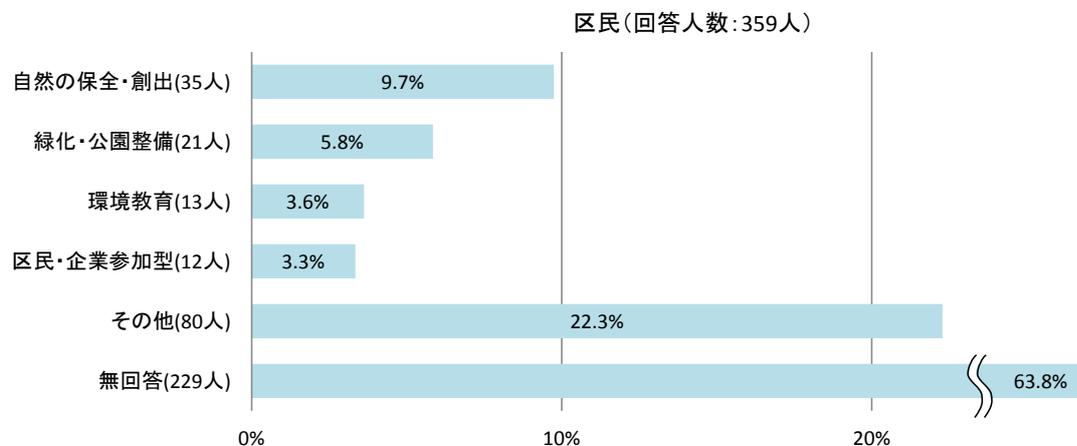
「生きものと共存するまちづくり」の取り組みについての関心の程度  
(単数回答)



### 3.3 戦略に期待すること

○区民

(自由記述)



最も多かった回答は「自然保全・創出」にかかわるもので、人工的な公園ではなく、自然に近い公園や自然そのものを望む回答が多くみられました。

緑化や公園整備、環境教育についても多くの回答がありました。

一部の関心のある人だけでなく、地域に根ざした住民参加型の戦略に期待するといった回答もみられました。

その他では、都市の利便性と自然保全とのバランスに着目した回答や、特記することはないが戦略を策定することについて期待しているという応援の回答もありました。

#### 【回答を一部抜粋】

「土」を大事にマンション等の屋上、ビルの屋上等々、緑化と共に大切な土を守って欲しいと思います。(70歳以上 女性)

いろいろな植物にふれられる環境を残して欲しい。(30歳代 女性)

田植えや野菜作りに参加出来、収穫して食べる ・きれいな河川づくり ・港区内にあるスポット巡り(神社・寺・美術館など) ・住む街の整備→花や緑のある暮らし、カラスの減少に努力する、など、上記で可能なもの(有効なもの)はツアーで体験する(40歳代 女性)

### 3.4 身近な自然環境に対する意識

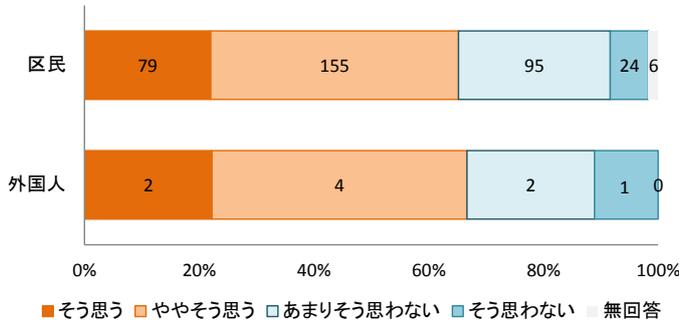
#### 3.4.1 港区の自然の豊かさ

○区民・外国人

港区は、自然環境が豊かだと思いますか？

(単数回答)

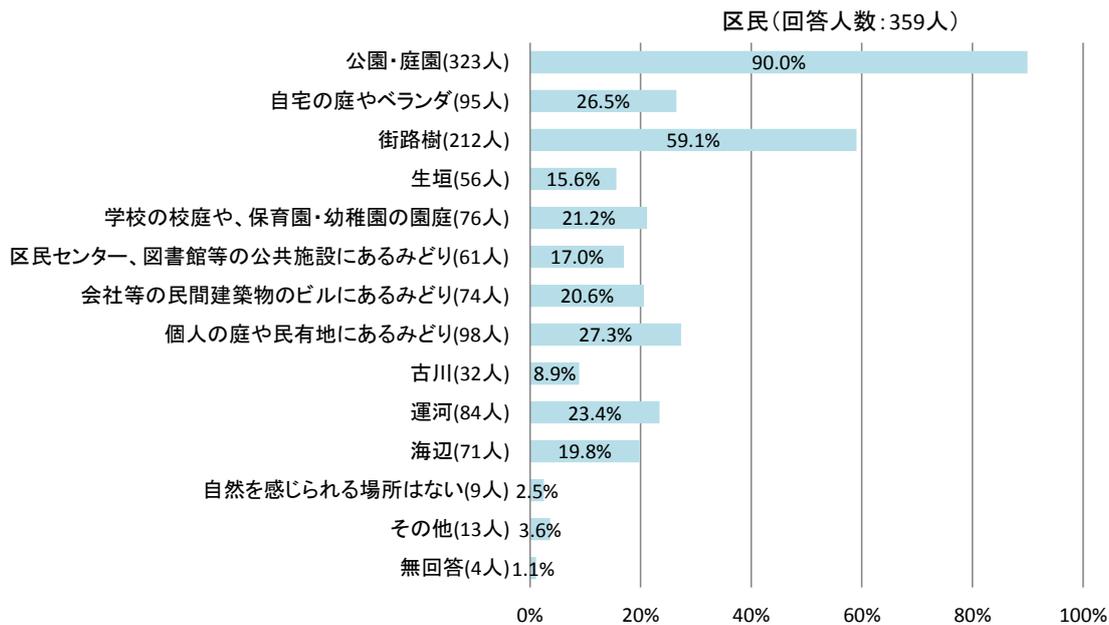
約6割の区民が、港区は自然環境が豊かであると回答しました。  
外国人も同様の傾向がありました。



#### 3.4.2 身近に自然を感じられる場所

○区民

(複数回答)

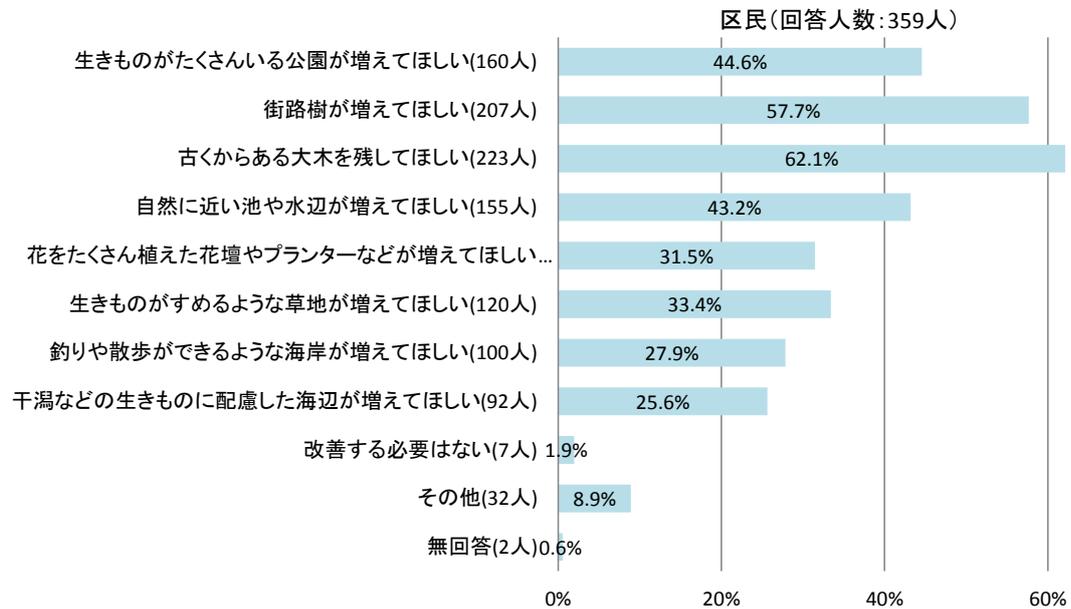


港区で身近に自然を感じられる場所としては、公園・庭園や街路樹が多くあげられました。大部分が埋立地である港区の現状が現れています。

### 3.4.3 港区の自然環境の改善に際して望むもの

○区民

(複数回答)



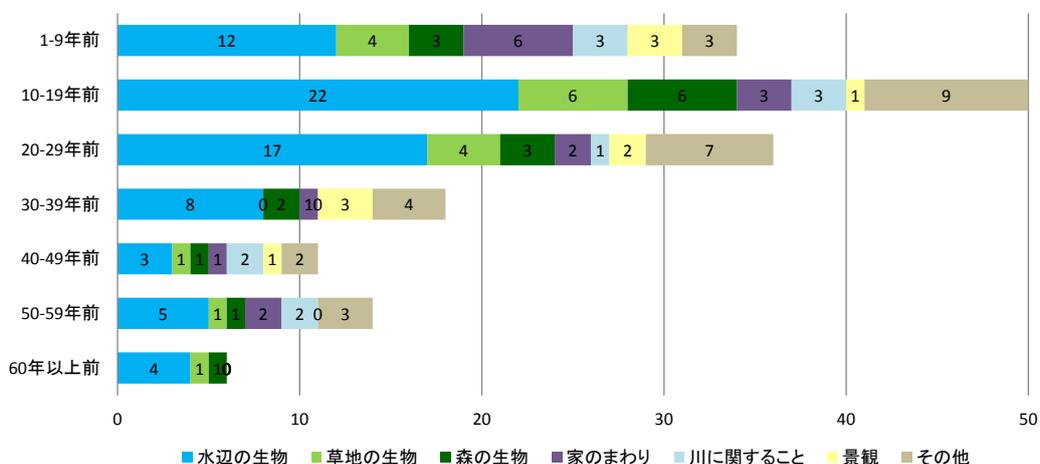
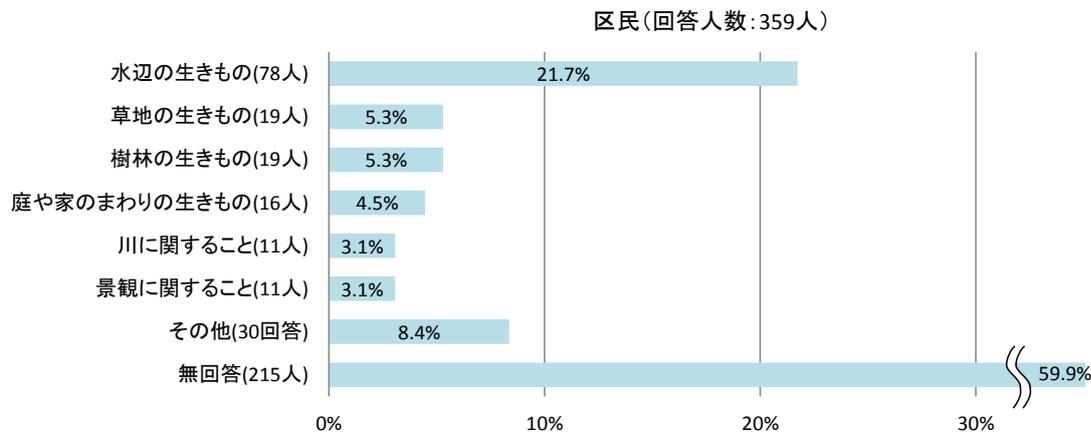
自然環境を改善する必要はないという回答は少なく、さまざまな側面で改善が望まれています。

とくに、古い大木の保存、街路樹の増加、生物生育生息空間として適した公園の増加が多く望まれていました。また、自然に近い水辺の創出や生きものがたくさんいる公園など、質の向上を望む回答も多く得られました。

### 3.4.4 以前いたが見かけなくなったと感じる生きもの

○区民

(自由記述)



見かけた年代とその生きものとの関係

半数以上が無回答でした。見かけた年代としては10-19年前が最も多く、次いで20-29年前が多くありました。なお、回答をいただいたうち、トンボ・カエル・ザリガニなどの水辺の生きものに関わる回答が約4割を占めました。

草地の生きものについては、タンポポやカマキリ、トカゲなどがあげられました。

樹林の生きものについては、セミについての回答が多くを占めていました。

庭や家のまわりの生きものについては、ヤモリやツバメ、ヘビなどがあげられました。

川に関することについては、運河や小川に小魚やザリガニなどがいたことなどがあげられました。

景観に関することについては、草むらがあったことや土の道があったことなどがあげられました。

#### 【回答を一部抜粋】

「15年くらい前にはいろいろなトンボが家のまわりに居ましたが、最近はほとんど見ません。」  
(男性 70歳以上)

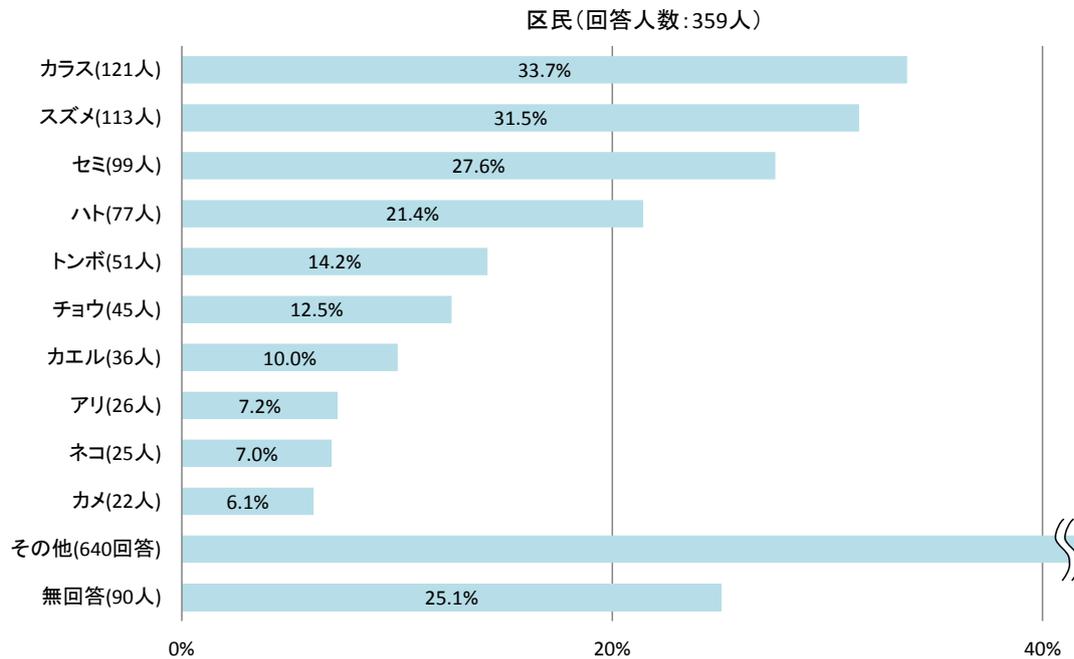
「33年くらい前にはふくろうがみられた。」(女性 70歳以上)

「70年くらい前には小川に水すまし、タガメ等、田圃等作業手伝わせよく見掛けたのち農薬散布で生きものの姿が激減した。今思えば懐しい限りです。」(女性 70歳以上)

### 3.4.5 身近な生きもの

○区民

(自由記述)



全体で 140 種類の単語が抽出されました。上位を占めるカラスやスズメ、セミ、ハトなどは、都会でのくらしに適応した野生生物で、港区の現状を反映した結果と考えられます。

有効回答者からは平均で約 4.6 種類の回答を得られています。全体では平均で約 3.5 種類でした。

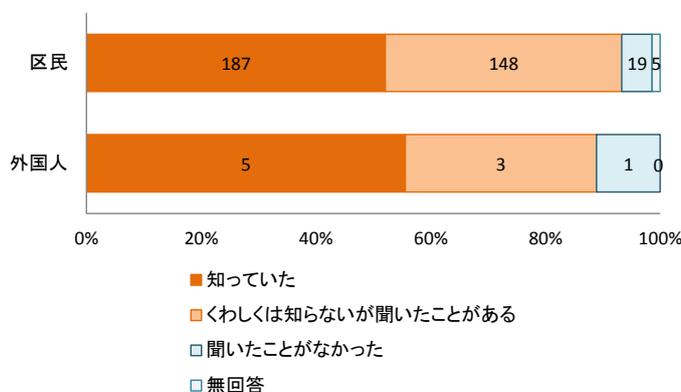
1 人あたりの最大回答数は 24 種類でした。

### 3.5 外来生物への意識

#### 3.5.1 外来生物問題の認知度

○区民・外国人

(単数回答)



約 9 割の区民が外来生物について聞いたことがあり、5 割が内容も知っていました。

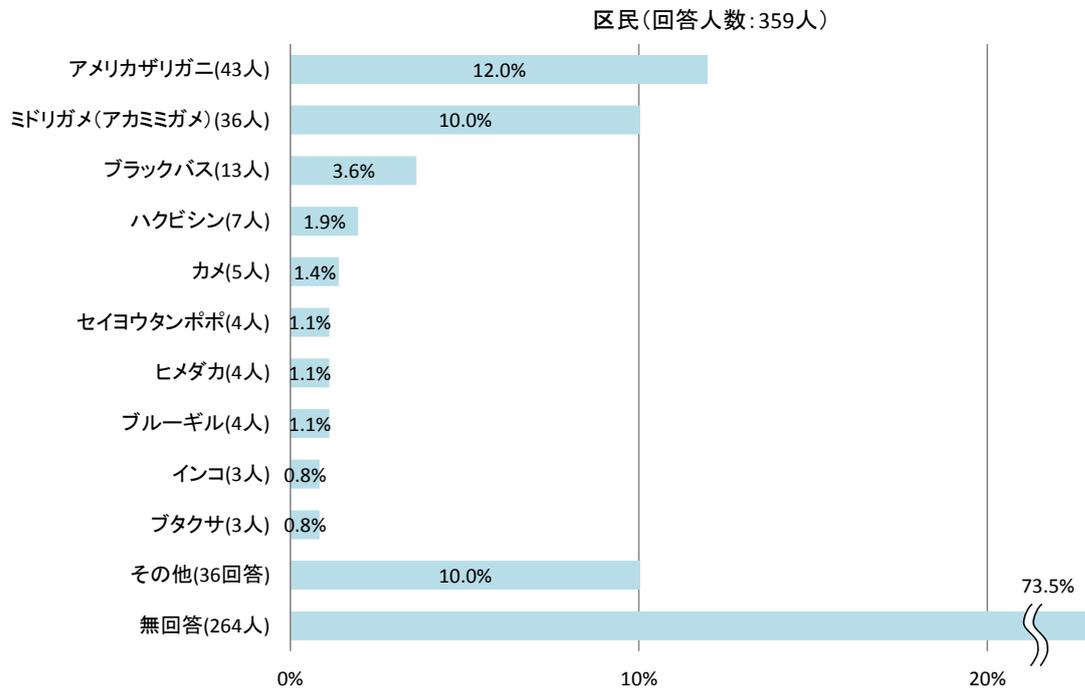
外国人も同様の傾向があり、また、9 名中 6 名が自国において問題になっている生物がいると認識していました。

外来生物問題への認知度は高いと言えます。

### 3.5.2 身の回りで見かける外来種

○区民

(複数回答)



※抽出された単語：41 個

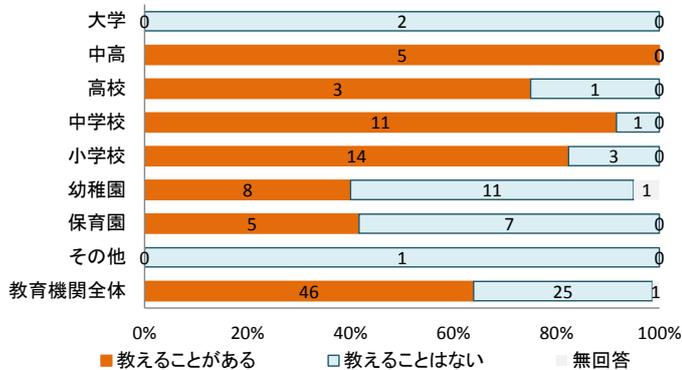
最も多い回答は無回答で、70%以上の区民は、身近な外来種の存在を意識していないことがわかりました。回答をいただいたなかでは、アメリカザリガニとミドリガメの回答がとくに多く、公園の池などで目につきやすく、身近な外来種の代名詞といえます。

ハクビシンは7件抽出されていますが、この種を外来種として扱うかどうかは諸説があります。

### 3.5.3 教育活動における外来生物問題への意識

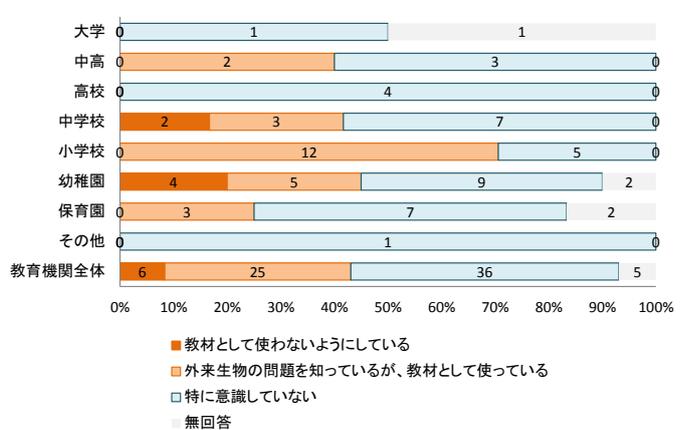
#### ○教育機関

教育活動（授業や課外活動）の中で外来種について教える機会の有無  
(単数回答)



#### ○教育機関

教材として外来種を使うことについての考え方  
(単数回答)



約6割の教育機関で外来種について教える機会があり、小学校～高校でとくに多いことがわかりました。

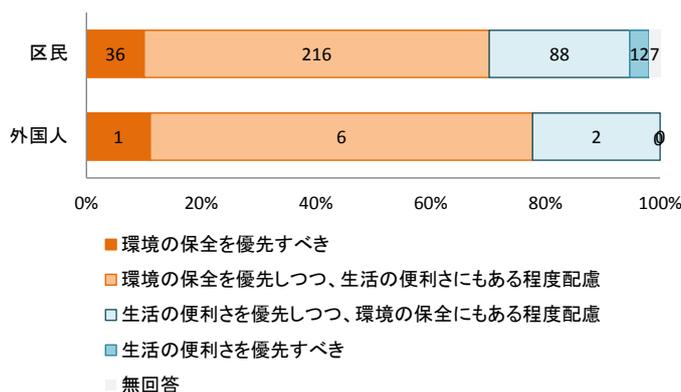
また、外来種を教材として扱うことに対して、約5割の教育機関で、とくに意識をしていないということがわかりました。

### 3.6 暮らしと生物多様性に関わる意識

#### 3.6.1 環境保全と生活の便利さの優先度

##### ○区民・外国人

(単数回答)



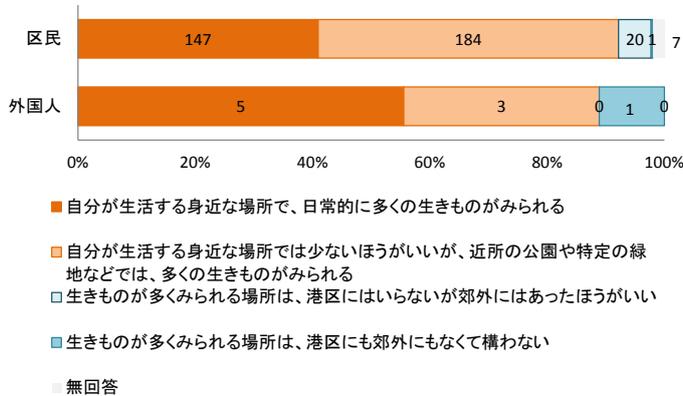
6割の区民が環境の保全を優先しつつ、生活の便利さにもある程度配慮するべきであると回答しました。

生活と環境保全の優先度を比較すると、環境保全への意識が高いと言えます。

### 3.6.2 暮らしと野生の生きものの距離感

○区民・外国人

(単数回答)

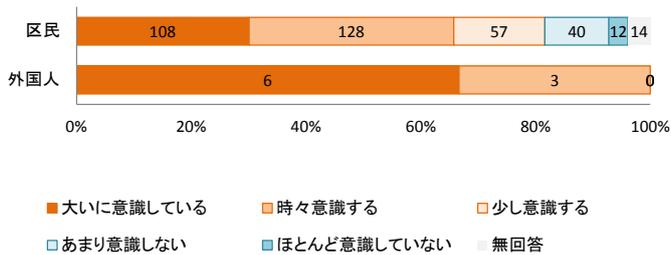


約 9 割の区民が、港区内に多くの生きものがみられる環境を望んでいることがわかりました。

### 3.6.3 他地域からの自然の恵みへの意識

○区民・外国人

(単数回答)

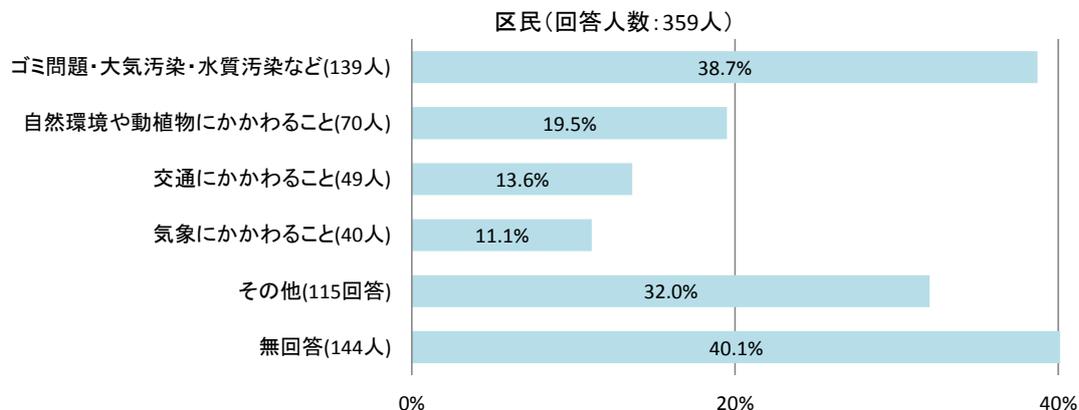


約 8 割の区民が、日々の暮らしのなかで、他地域からの自然の恵みを意識していることがわかりました。

### 3.7 身近な環境問題

○区民

(自由記述)



40%以上の区民が環境問題を身近なものとして感じていない一方で、同程度の区民はゴミ問題、大気汚染、水質汚染といった廃棄物に関する問題を身近に感じていることがわかりました。

街路樹の整備や自然環境の整備、カラスや地域ネコなどの動物の問題を指摘する回答も多くみられました。

交通にかかわることでは、自動車と自転車についての回答が多くみられました。

気象にかかわることでは、ヒートアイランド現象や温暖化についての回答が多くみられました。その他では、ビルの開発や喫煙、景観破壊についての回答が多くみられました。

#### 【回答を一部抜粋】

「自然の風がほしい。自然の土が見たい。青い空、雲それ自然の雨。」 (70歳以上 男性)

「たとえば元麻布にある元保育園の土地が、現在空地になっている。この様な場所は児童公園などではなく「生物多様性」基地としてどんどん自然にもどしてほしい。」 (70歳以上 男性)

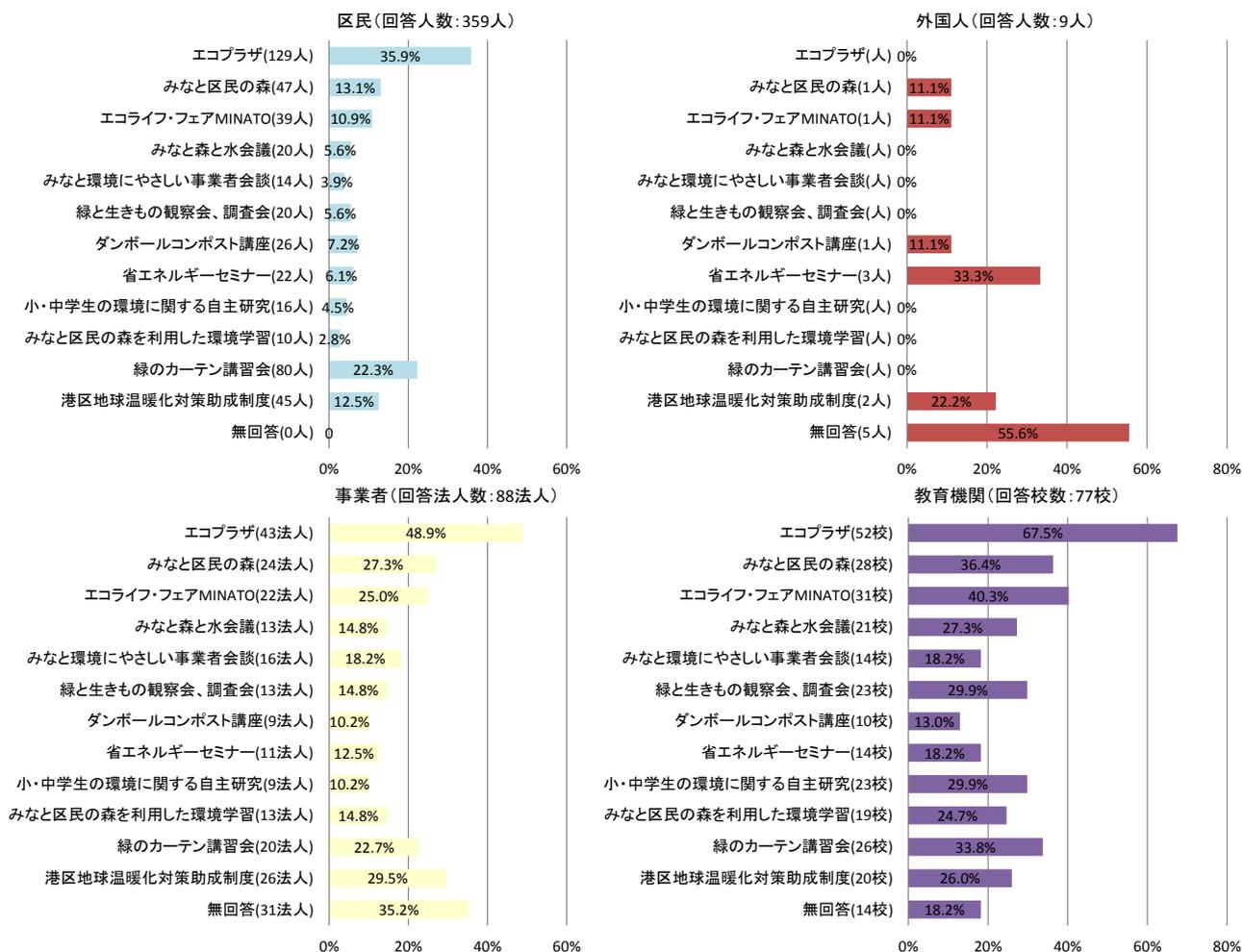
「緑が少ない。カラスやハトなどのフン被害がある。車の排気ガス、騒音。」 (30歳代 女性)

### 3.8 環境活動への意識

#### 3.8.1 港区の環境に関する施設や施策等について、知っているもの

○区民・外国人・事業者・教育機関

(複数回答)

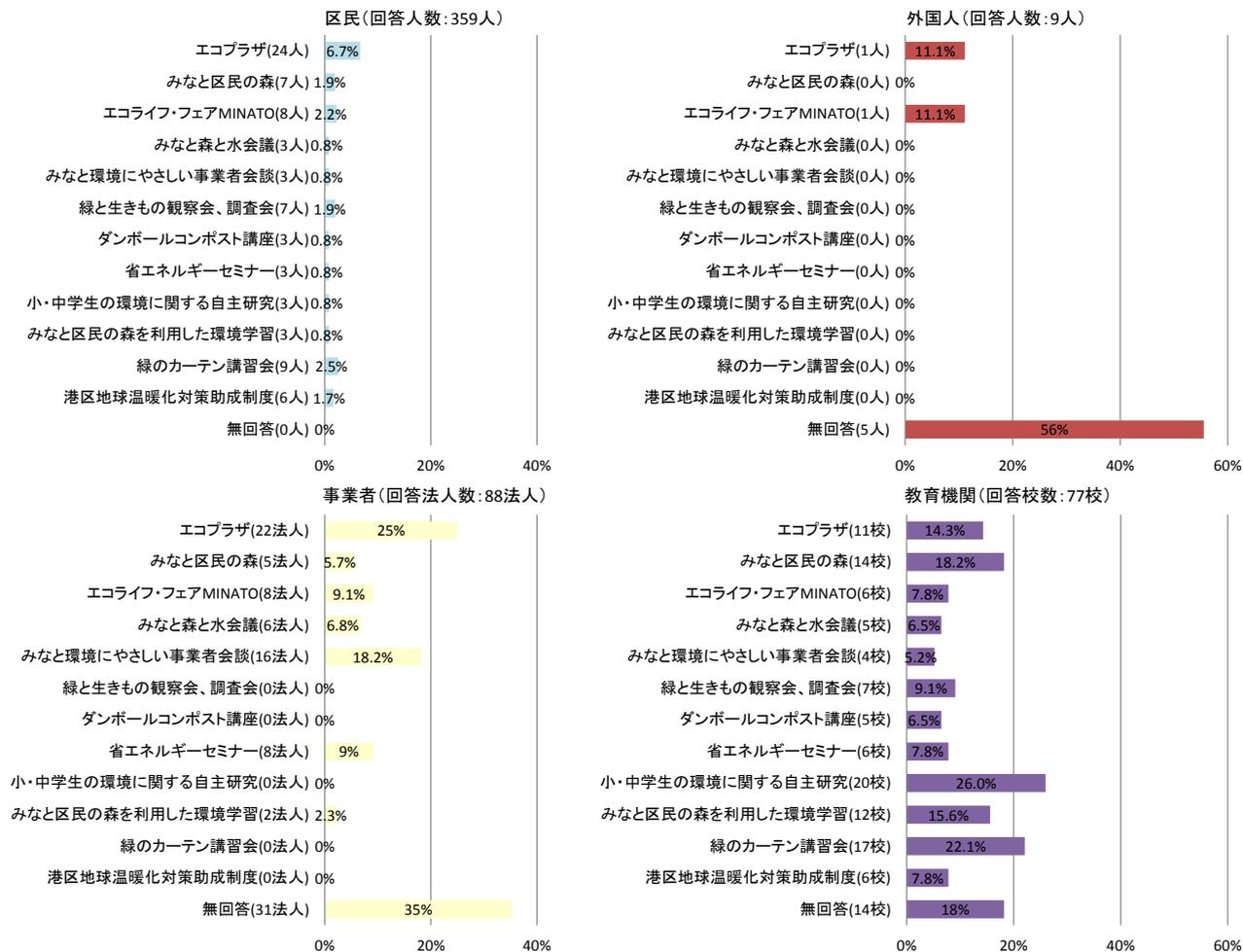


無回答も多く見られましたが、エコプラザや緑のカーテン講習会、みなと区民の森などで、認知度が高いことがわかりました。

### 3.8.2 港区の環境に関する施設や施策等について、参加・利用したことがあるもの

○区民・外国人・事業者・教育機関

(複数回答)

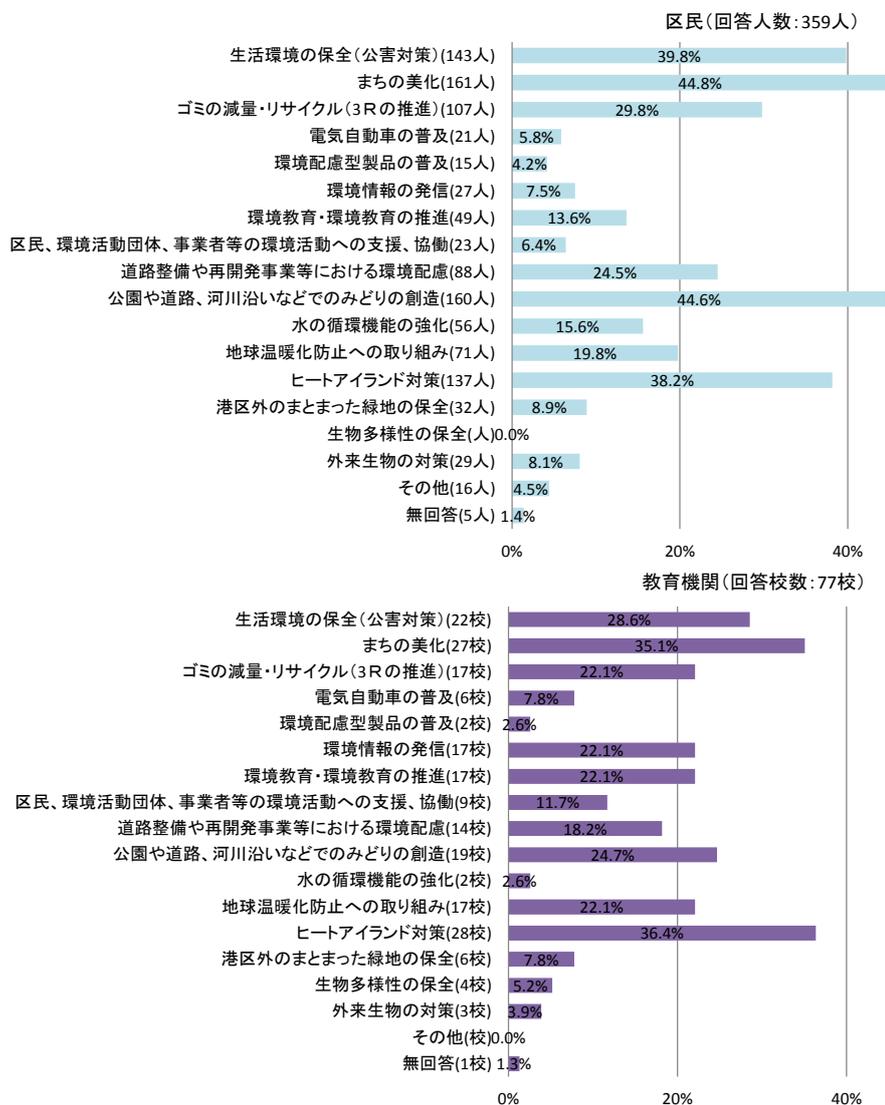


区民、外国人および事業者では、エコプラザの利用頻度が高いことがわかりました。区民では、先の「知っているか」の結果と比較すると、区民では、知ってはいても、実際には利用することは少ないことがわかります。一方、教育機関では、比較的高い利用率でした。

### 3.8.3 優先的に取り組んでほしいこと

○区民・教育機関

(複数回答)

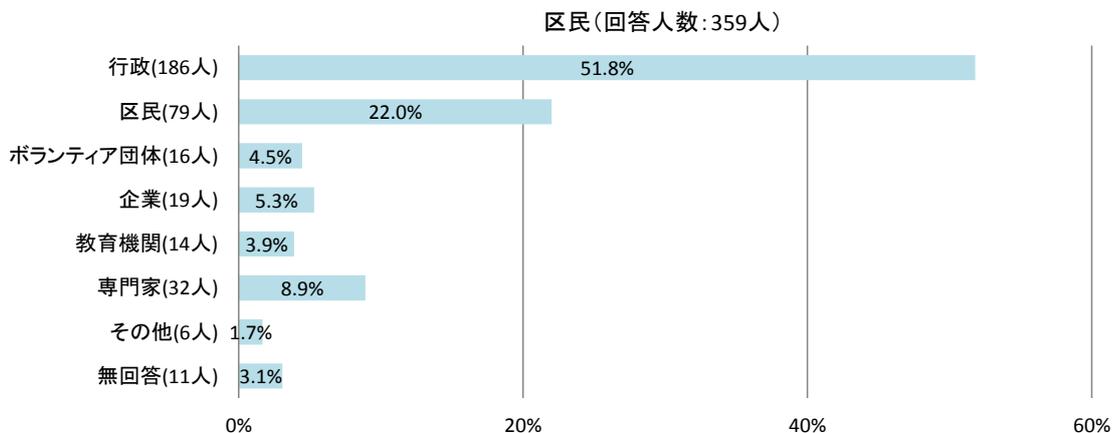


港区に優先的に取り組んで欲しいことは、まちの美化、公園や道路、河川沿いなどでのみどりの創造、公害対策やヒートアイランド対策など、身近な住環境の改善に関わることが多くみられました。

### 3.9 良好な環境づくりの取り組み主体の考え

○区民

(単数回答 (一部複数回答あり))



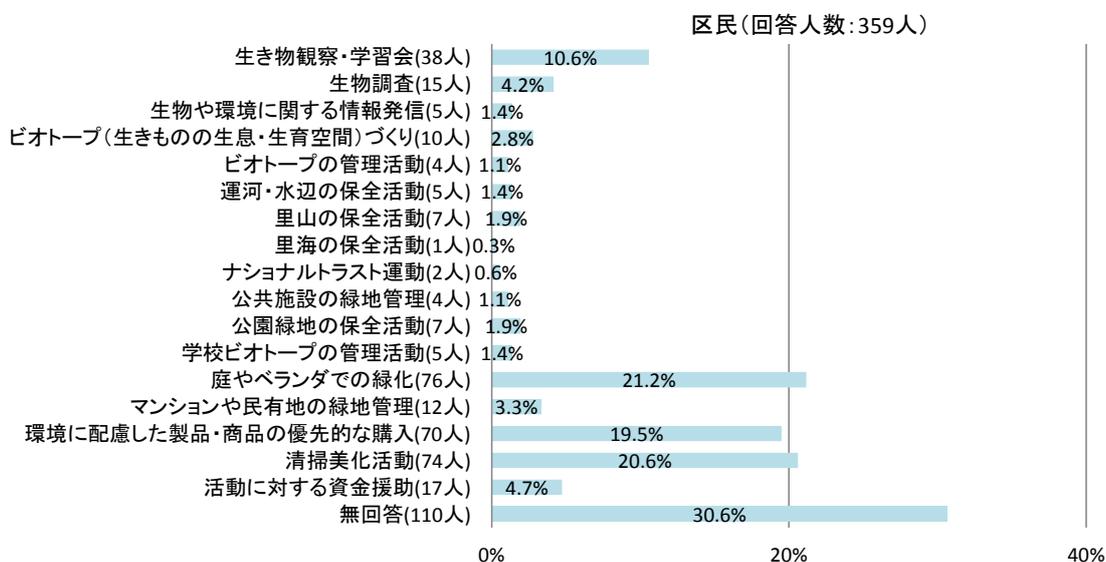
良好な環境づくりの取り組み主体として、行政が重要であるとの回答が最多で、行動のきっかけづくりを行政に求める声が多いことがわかりました。

### 3.10 区民の環境活動への意識と活動状況

#### 3.10.1 これまでに参加したことのある活動

○区民

(複数回答)

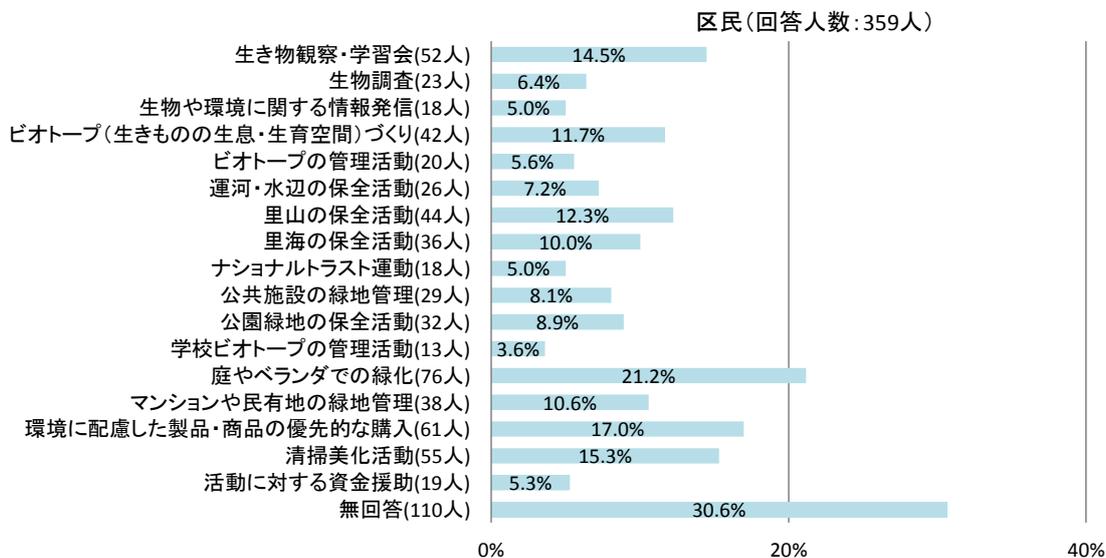


これまでに参加したことのある活動は、庭やベランダでの緑化、清掃美化活動、環境に配慮した製品・商品の優先的な購入といった、日常生活のなかで実施可能な活動が多くみられました。生き物観察・学習会への参加も多く、身近な自然への理解を深めたいという傾向もみられました。

### 3. 10. 2 これから参加してみたい活動

○区民

(複数回答)

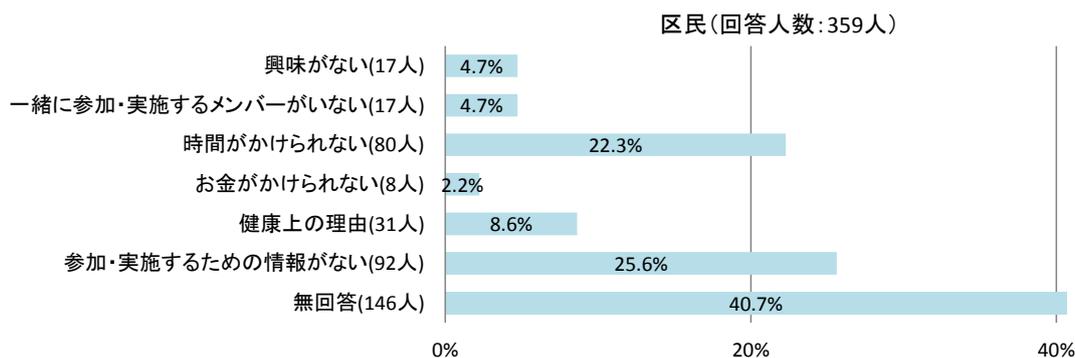


これから参加してみたい活動は、無回答が 30%と最も多いものの、庭やベランダでの緑化や環境に配慮した製品・商品の優先的な購入、清掃美化活動など、日常生活の中で実施可能な活動が多くを占めるほか、ビオトープづくりや里山・里海の保全活動等の自然に関わる活動への興味も高いことがわかりました。

### 3. 10. 3 活動に参加しない理由

○区民

(単数回答 (一部複数回答あり))

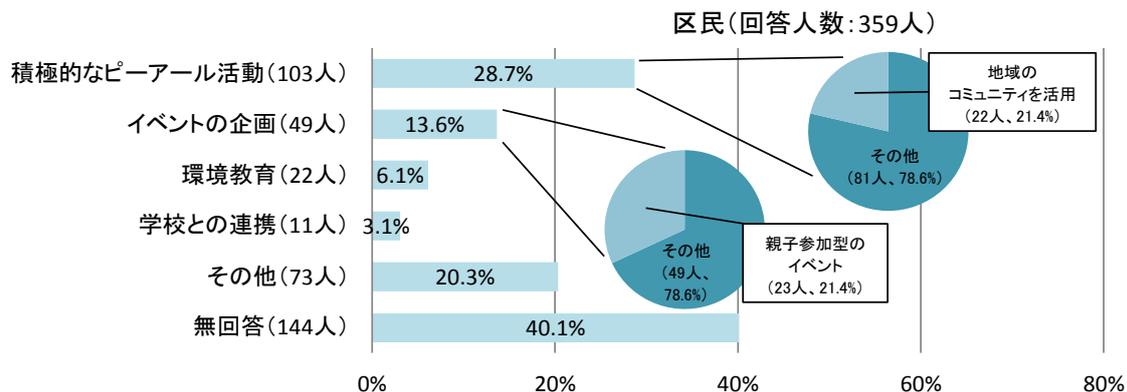


環境に関連した活動に参加しない理由は、無回答が多いものの、参加・実施するための情報がないこと、時間がかけられないことが主な理由として挙げられました。条件を整えば多くの区民が参加する可能性があることがわかりました。

### 3. 10. 4 環境に関連した活動の参加者を増やすためには

○区民

(自由記述)



とくに多い回答は、「もっと積極的にピアールすべき」といった内容であり、その中でも回覧板や自治会、町内会を経由して告知するべきとの回答が多くみられました。

次いで、イベントをすれば人が集まるという回答が多く、その中でも「子どもと一緒に参加できるイベント」を望む回答がとくに多くみられました。

長い目を見た場合、環境教育を実施することで、将来的に参加者が増えるのではないかという回答が多くみられました。

#### 【回答の一部を抜粋】

「子供の場合は学校や家庭での教育、といったことを通して、環境への配慮が普通に自然に行われるのが理想だと思います。」 (50歳代 女性)

「情報提供をもう少し積極的にしていただけたら、と思います。区報など、区の情報を手にとる機会がありません。どこにあるのかも…？」 (40歳代 女性)

「コミュニティやその形成との連携が重要なように思います。」 (20歳代 男性)

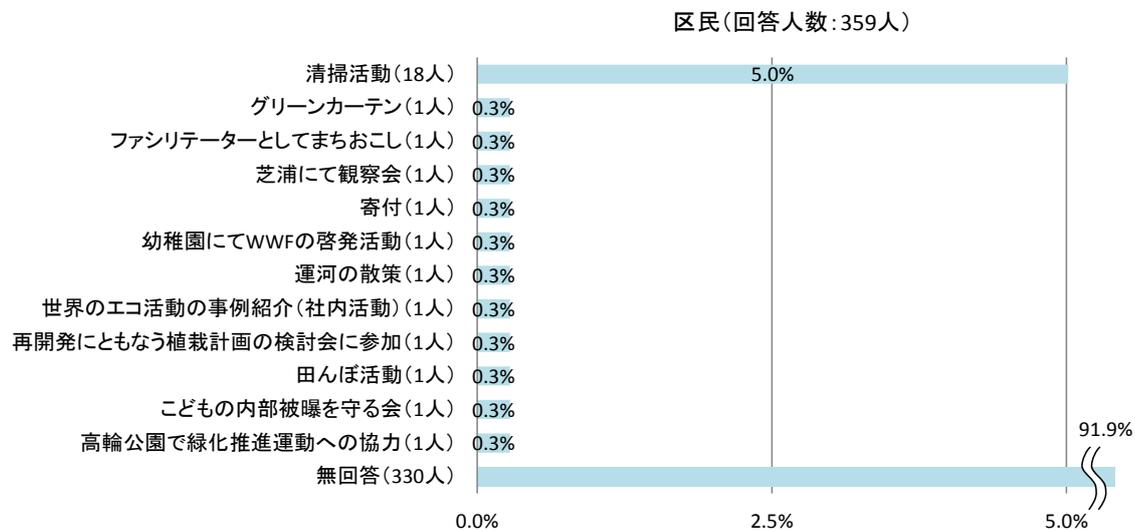
「参加しやすいイベント型の活動が広報みなとや掲示板に告知されれば行くかもしれない。」

(30歳代 女性) 「回覧板にプリントを付けて、目につきやすいようにしてほしい。」 (50歳代 女性)

### 3. 10.5 参加または主催している環境に関連した活動

○区民

(自由記述)

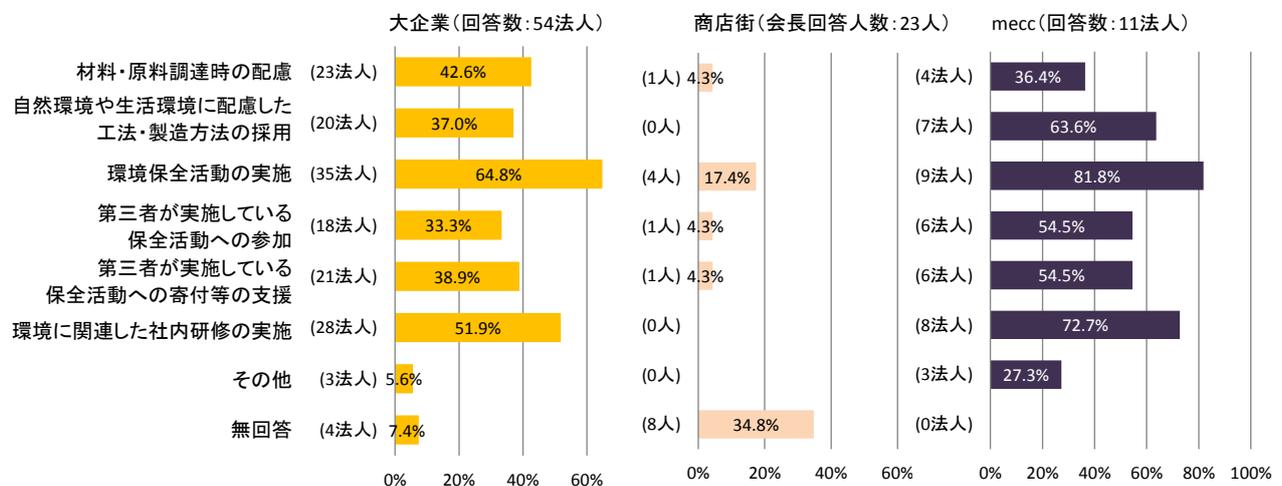


地域や会社の清掃活動が多くを占めましたが、ファシリテーターとして活動する方や観察会を実施する方などの回答を得られました。

### 3. 11 事業者における活動状況

#### 3. 11. 1 生物多様性の保全のために取り組んでいること

(複数回答)



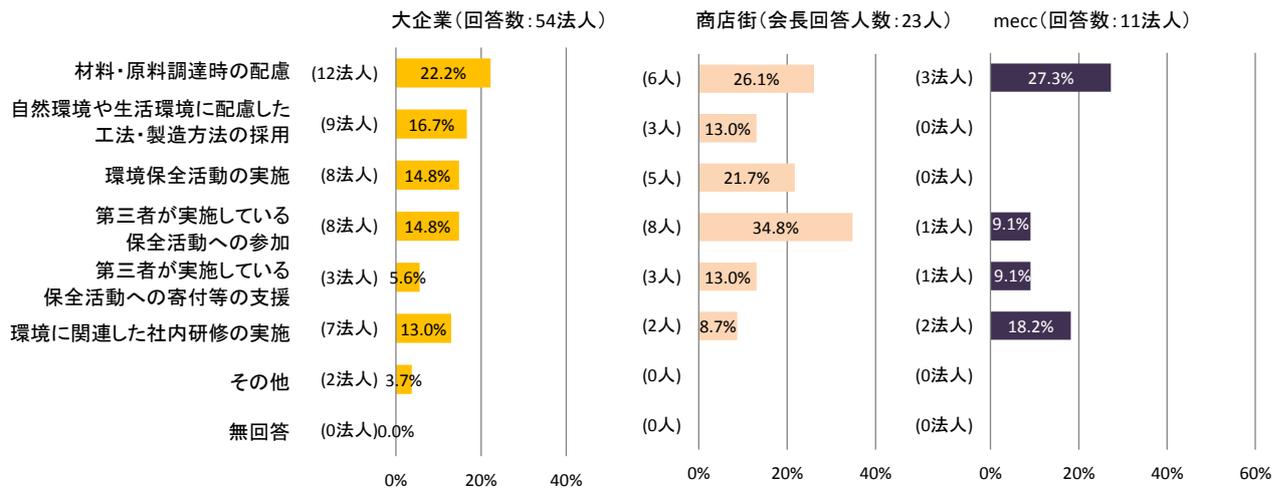
ほとんどの事業者が何らかの活動をしており、最も多かったのは、環境保全活動の実施でした。

また、無回答であった事業者は12社で、とくに取り組みをしていない事業者といえます。商店街では、15の商店街のうち半数にあたる8の商店街が無回答で、取り組みがされにくいようです。

※以下、mecc:みなと環境にやさしい事業者会議

### 3.11.2 生物多様性の保全のためにこれから取り組みたいこと

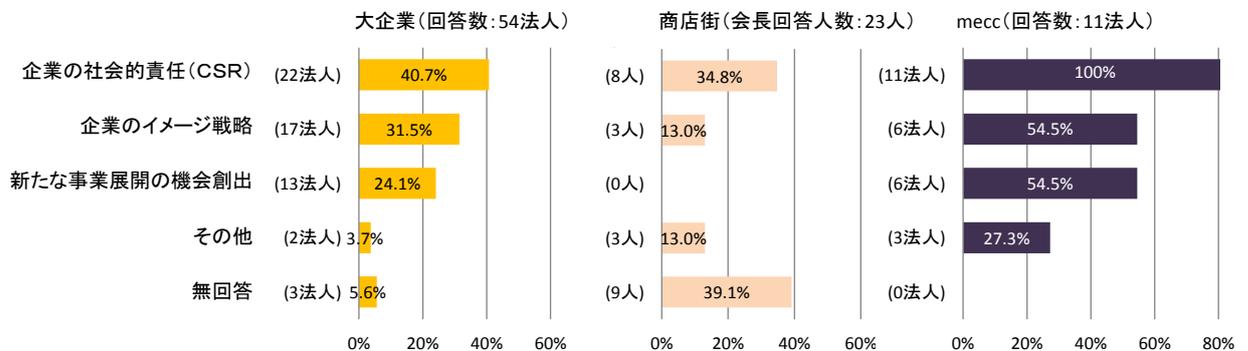
(複数回答)



今後取り組みたいこととしては、材料・原料調達時の配慮が最も多く、次いで第三者が実施している保全活動への参加でした。今後の取り組みの希望については、事業者の区分に関わらず、多岐にわたる分野に対して関心がありました。

### 3.11.3 取り組みの動機

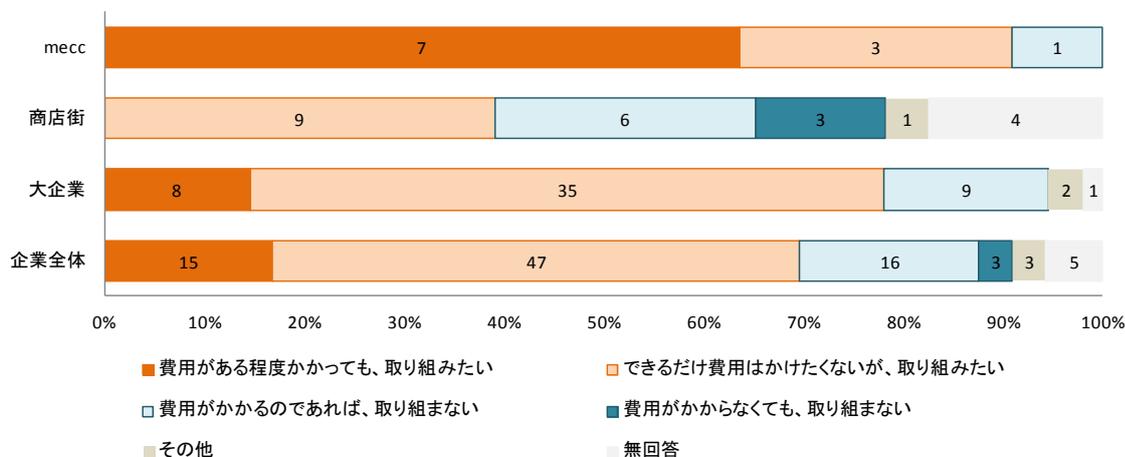
(複数回答)



取り組みの動機としては、企業の社会的責任がいずれの事業者の区分においても最多でした。

### 3.11.4 取り組みへの姿勢

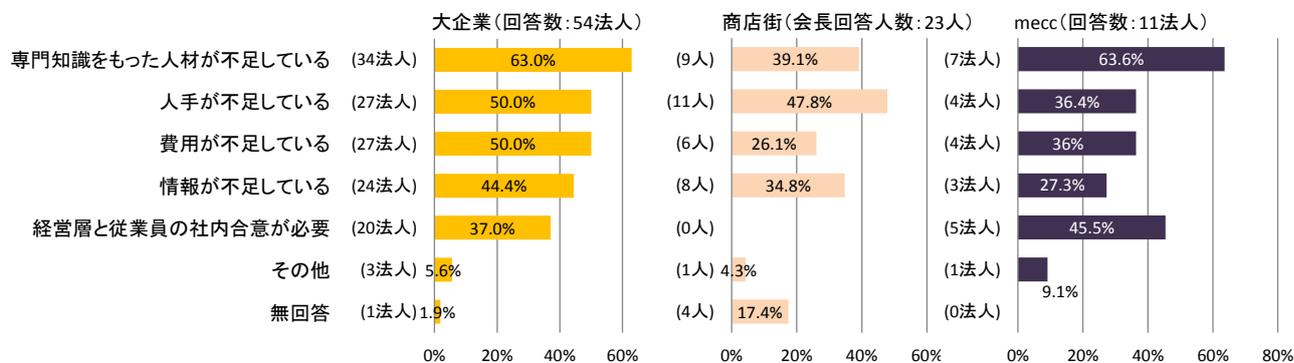
(単数回答)



生物多様性の保全のための取り組みに関して、「費用がある程度かかっても、取り組みたい」、「できるだけ費用はかけたくないが、取り組みたい」といった積極的な姿勢である事業者は、全体で約7割でした。「費用がかからなくても取り組みない」はごく少数で、かけられる費用が取り組みを左右すると言えます。

### 3.11.5 取り組みにおける課題

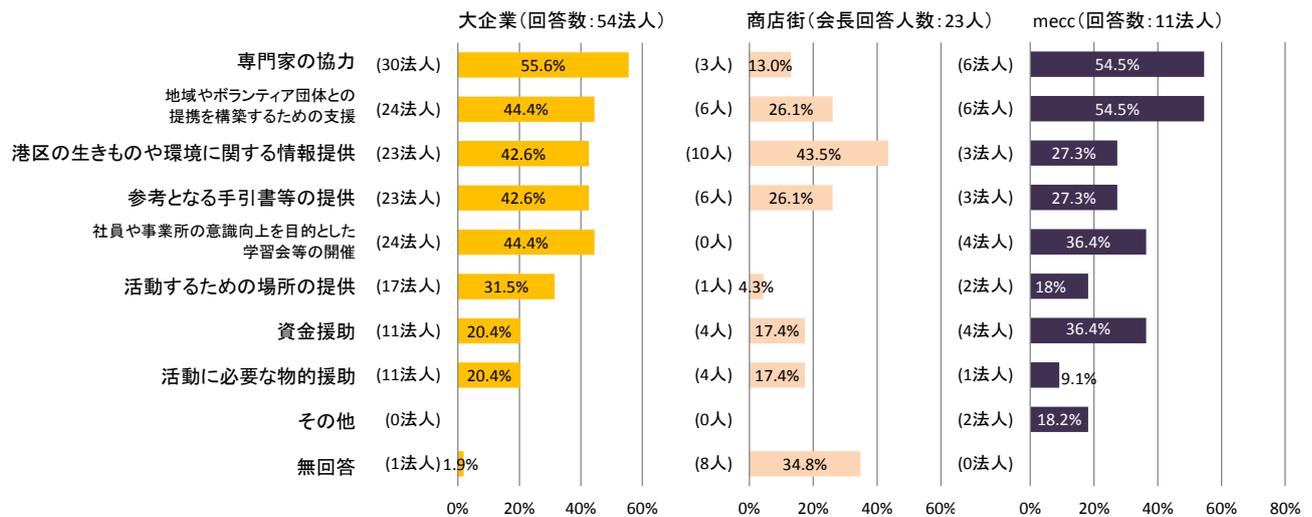
(複数回答)



取り組みにおける課題は人手不足と費用が不足など、コスト面が多く挙げられましたが、専門知識をもった人材の不足が最も多いなど、取り組み方法を模索している現実がわかりました。

### 3.11.6 必要な支援

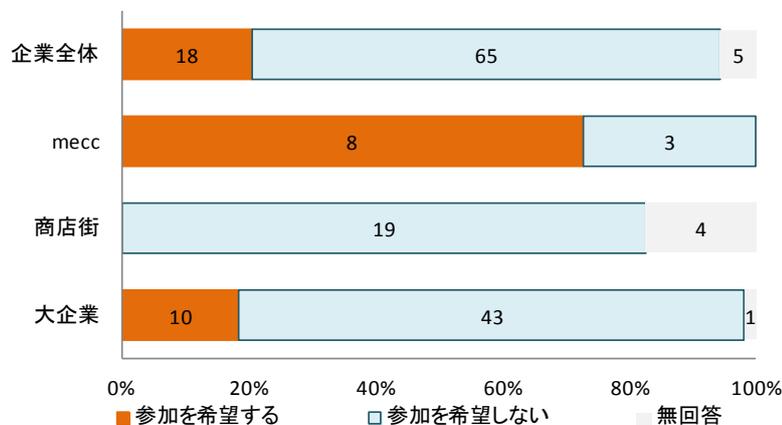
(複数回答)



生物多様性の保全に関わる取り組みを進めるにあたって必要な支援は、多岐に渡って求められていました。なかでも、専門家の協力や港区の生きものや環境に関する情報提供、参考となる手引書等の提供が多く、知識や情報の不足を補うような支援がとくに求められています。

### 3.11.7 ピアアールの希望

(単数回答)



取り組みについてのピアアールする場への参加の希望は、事業者全体で約2割でした。

### 3.11.8 ピーアールしたい取り組み

(自由記述)

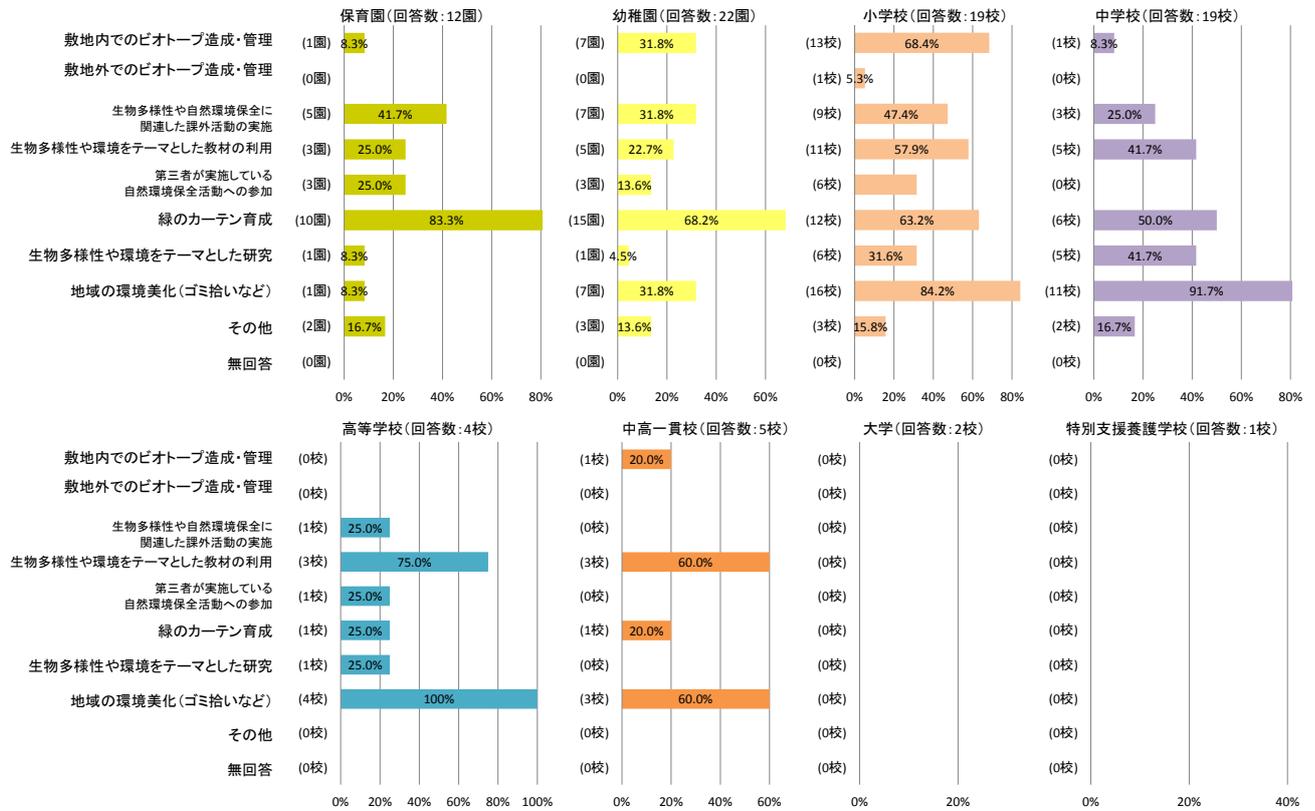
ピーアールしたい取り組みとしては、次のようなものがありました。

- 屋上緑化
- 重要種保全の取り組み
- カーボンオフセットの取り組み
- 事業所内外での啓発活動
- レインフォレストアライアンス認証取得
- 環境負荷の低減
- JBIB など他企業との連携
- NPO などとの連携
- 産業廃棄物の適切な管理
- 生物多様性保全事業への積極的参加
- 地域固有野菜や文化の保全
- コミュニケーションやネットワークなど技術支援
- 生物多様性の高い事業地
- 港区内で生物などのモニタリング調査を実施
- 学校ビオトープの整備
- 売りに応じた環境事業への還元
- 生物多様性評価ツールの紹介
- 生物多様性に配慮した水質浄化システム
- 情報発信
- 生物多様性に配慮した都市デザインの提案

### 3.12 教育機関における活動状況

#### 3.12.1 環境の保全のために取り組んでいること

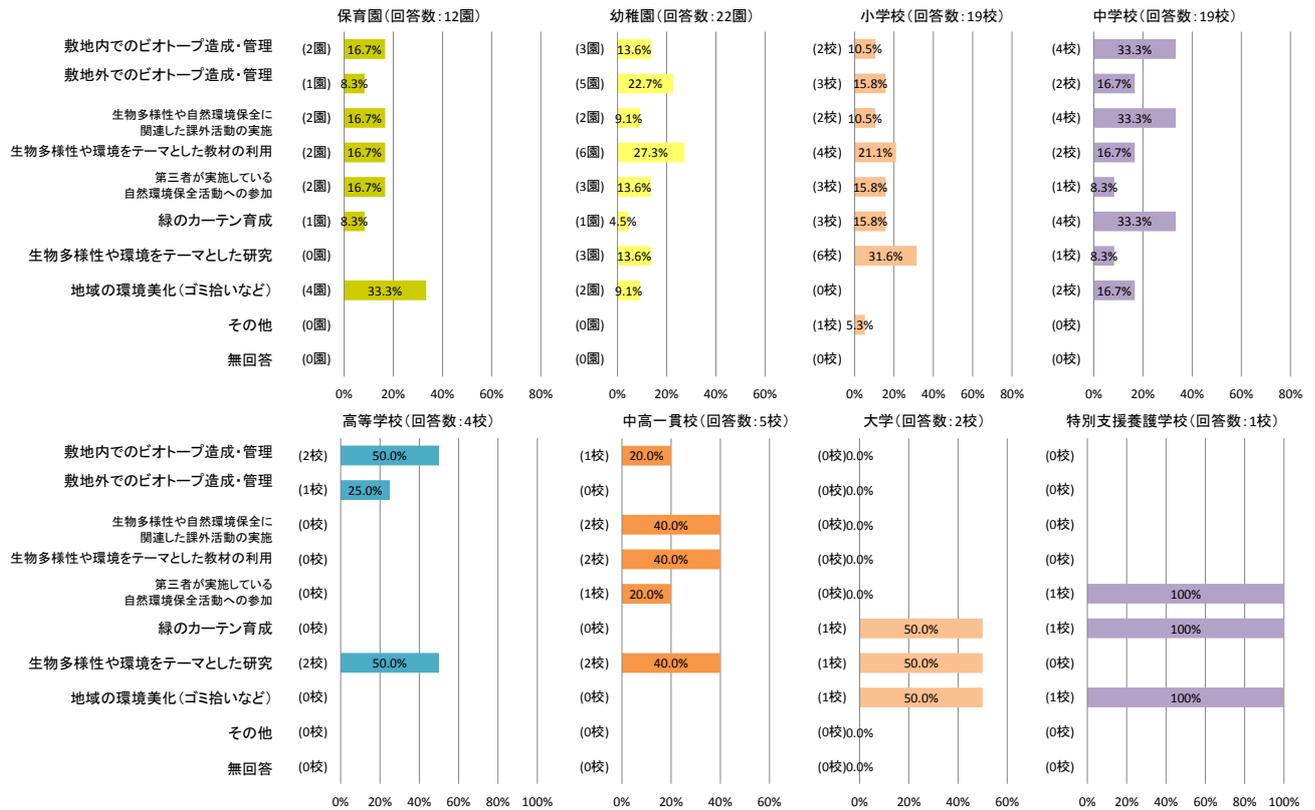
(複数回答)



教育機関が環境の保全のために取り組んでいることとしては、緑のカーテンの育成、地域の環境美化活動が多くみられました。

### 3.12.2 これから取り組みたいこと

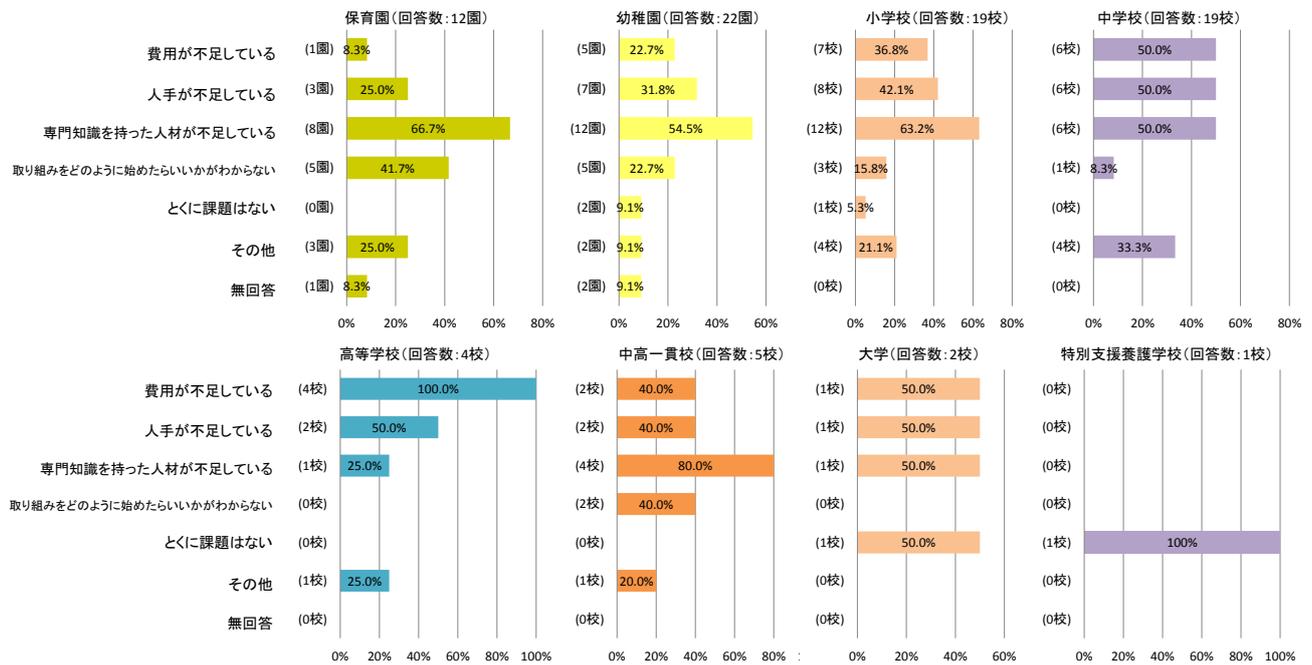
(複数回答)



これから取り組みたい活動としては、生物多様性や環境をテーマとした教材の利用、生物多様性や環境をテーマとした研究が多くみられました。

### 3.12.3 取り組みにおける課題

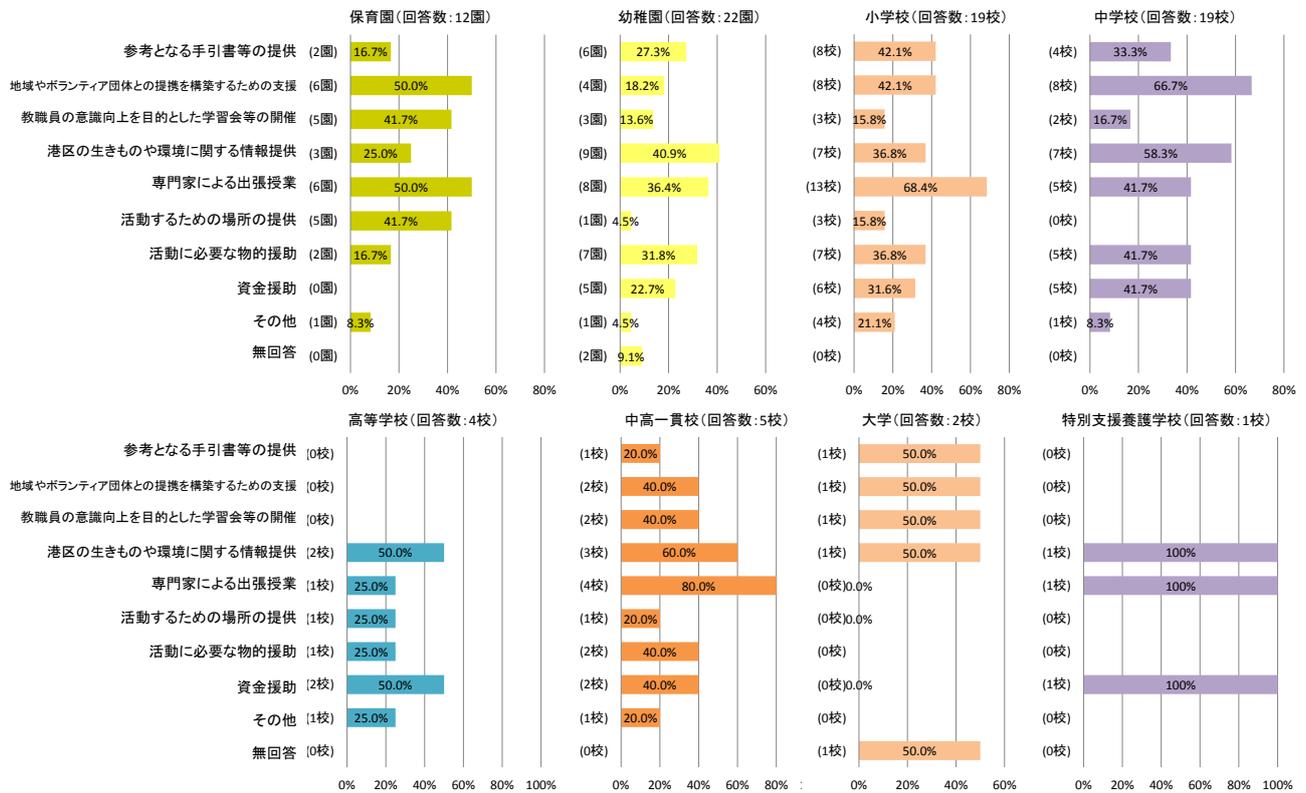
(複数回答)



取り組みにおける課題としては、専門知識をもった人材の不足が最も多くみられました。「その他」では、とくに「時間がない」という趣旨の回答が多くみられます。

### 3.12.4 必要な支援

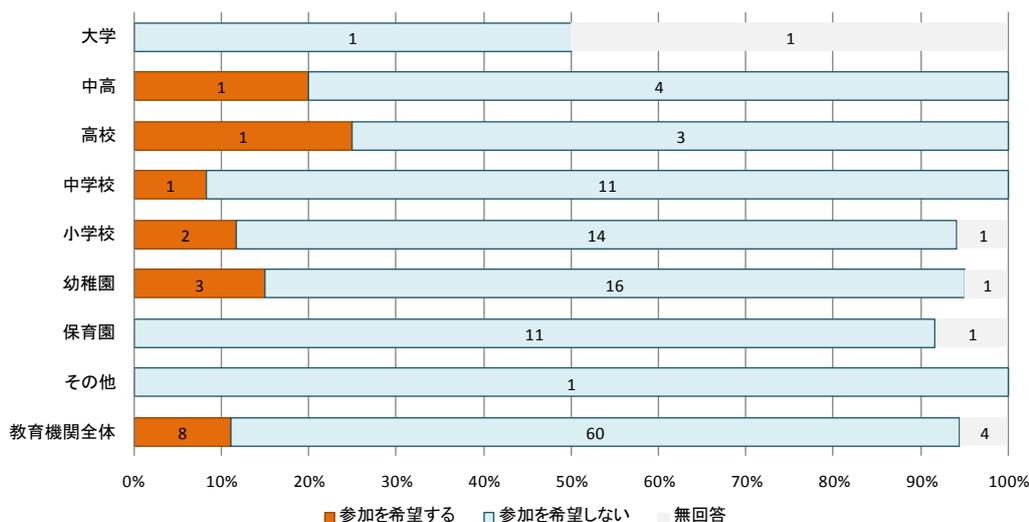
(複数回答)



具体的な要望としては、「専門家やアドバイザーのリストの作成」、「専門家やアドバイザー・出張授業等の依頼システムの構築」、「ビオトープ造成（改築）に関わる費用の援助」、「ビオトープの造成に関する専門家の派遣」、「地域の身近な自然と触れ合える場所に関する情報提供」等がありました。

### 3.12.5 ピアールの希望

(単数回答)



取り組みについてのピアールする場への参加の希望は、教育機関全体で約1割でした。

### 3.12.6 ピアールしたい取り組み

(自由回答)

21の教育機関から回答を得られました。以下にその一部を抜粋します。

生態系を学び、生物多様性を理解しその保全に取り組むこと、また環境の意義を学ぶことは、体験を伴って初めて生涯身につき、かつ生き活きとした学びとなる分野です。

通常の授業では、なかなか腰をすえた取り組みができないもどかしさを感じていました。本校では、学校改革の一環として、理科教育の充実を現在図っています。昨年度より通常の授業以外で「サイエンティストの時間」を設け、毎週1回実験や観察を行う授業をスタートさせました。

ここでは、物理・化学・生物・地学の理科分野の実習を行っています。屋外実験場での動植物の観察会では、生徒たちは都心とは思えない多様な生物との出会いに感嘆の声をあげています。また、実験池や田んぼの池の水を汲んできてのプランクトンの観察もまた、水の環境の豊かさを目の当たりにする機会となっています。

次年度より、中学3年生の選択者による「科学的探究活動実施クラス」が始まります。

このクラスの生徒は、物理系と生物系の各班に分かれ1年間を掛けて各自のテーマにそった内容の継続実験に取り組む予定です。生物班は、細胞レベル研究班と個体レベル研究班に分かれて活動する予定です。

フィールドワークとして、本校の屋外実験場の動植物と水・土壌の環境の研究、弁慶堀にて継続した生物観察会の実施を考えています。また、このクラスの実習旅行では、[redacted]を編成し、普段生活している環境とは全く違った離島での生物調査を行う予定です。

水の環境については[redacted]の[redacted]先生、田んぼや畑に関しては、[redacted]の[redacted]先生、土壌関係に関しては、[redacted]の[redacted]先生、[redacted]の[redacted]先生にご相談しながら実施に向けて準備を重ねているところです。

( [redacted] )

ビオトープは池だけでなく、みかん類の木やツツジ、アベリアなども植え、蝶を呼び込んでいます。隣のレインボー公園、浜辺でもショウリョウバッタ、オンブバッタなどを見つけて飼育しています。

畑では夏野菜、サツマイモ、緑のカーテンなど栽培活動を通して、自然とのかかわりを深めています。今年はしませんでした。昨年一昨年は稲作も行い、お台場産のコメを食べることもできました。稲わらを使ってケースや正月飾りを作ったりもしました。自然のものは捨てるものがない。もったいないということを学ぶこともできました。

( [REDACTED] )

1. 年間3回の地域清掃を地域住民、地域企業、役所とともに取り組んでいる。(とくに地域の企業と共に行うことに意義を感じている)
2. NPO 法人「運河を美しくする会」とともに地域の運河の生き物や水質等について4年生を中心に学習を進めている。
3. 5年生を中心に「 [REDACTED] 」を活用し、米作りを行っている。また、わらを活用し、6年生では「わらじ」を作成し、旧箱根道を歩く活動を行っている。」

( [REDACTED] )

- ・ [REDACTED] が、地球に持ち帰った宇宙ケヤキを育てています。
- ・ [REDACTED] が、地球に持ち帰った宇宙カボチャ、宇宙アサガオを育てています。
- ・ [REDACTED] には、ご講演いただきました。
- ・ ソーラーパネル、雨水利用、屋上緑化、グリーンカーテンなどを備えたエコスクールです。」

( [REDACTED] )

すぐ隣りに有栖川公園があります。木々や草花がとても豊かです。

秋には木の実を拾いに行ったりしますが、枝を切った時などの枝などを、保育の材料として使ったり出来るといいなあと思っています。

木の丸太や枝で、園庭の整備もしたいと思っています。そうした廃材などを提供してもらえると、ありがたいです。

( [REDACTED] )

### 3.13 小学校 5 年生における自然との関わりや意識

#### 3.13.1 好きな遊び

(自由記述)

ドッチボールやキャッチボールなどを含むボールを使った遊び、缶けりなどの鬼ごっこが多く抽出されました。また、木登りや昆虫採集などの自然あそびも比較的多くの割合を占めていました。

テレビゲームなどの電子機器を用いたゲームも人気がありますが、それよりも屋外で体を動かすことが好まれるようです。

| カテゴリ      | 抽出数  | %     |
|-----------|------|-------|
| ボールを使った遊び | 561  | 68.2% |
| 鬼ごっこ      | 345  | 42.0% |
| 自然あそび     | 159  | 19.3% |
| 電子ゲーム     | 107  | 13.0% |
| そのほか      | 527  | 64.1% |
| 無回答       | 12   | 1.5%  |
| 合計        | 1699 | -     |

※児童回答人数：822 人

#### 3.13.2 これまでに体験したことのある自然体験とこれからしてみたい自然体験

(複数回答・自由記述)

これまでに体験したことのある自然体験とこれからしてみたい自然体験について、選択肢に対する回答数は下表のとおりです。

なお、「またしたい」は「これまでにしたことがある」と「これからしてみたい」の両方に○を付けた場合の回答者数を示します。

| 選択肢                  | これまでに<br>したことがある | これから<br>してみたい | またしたい |
|----------------------|------------------|---------------|-------|
| 虫採り                  | 591              | 77            | 37    |
| 植物を使った遊び             | 476              | 186           | 33    |
| 野鳥を見たり、野鳥の声を聞くこと     | 516              | 160           | 35    |
| 木登り                  | 586              | 113           | 46    |
| 泥んこ遊び                | 534              | 93            | 26    |
| 海や川で貝をとったり魚をつったりすること | 555              | 149           | 67    |
| 海や川で泳ぐこと             | 660              | 56            | 58    |
| 落ち葉を使った遊び            | 510              | 139           | 19    |
| 夜空いっぱい輝く星をゆっくり見ること   | 484              | 226           | 48    |
| キャンプ                 | 485              | 231           | 53    |
| 山登り                  | 734              | 18            | 49    |
| 無回答                  |                  |               | 1     |

※児童回答人数：822 人

これからしてみたいこととの記述回答としては、下表のような結果が得られました。

釣りや山登り、カヌーなどのアウトドアスポーツが最も多く、次いでスケートボード、バンジージャンプなどの屋外スポーツや、ハイキングや無人島生活、探検などの自然の中で遊んだりのんびりすることが多くなっています。

| 遊びの内容             | 抽出数 | %     |
|-------------------|-----|-------|
| アウトドアスポーツ         | 52  | 6.3%  |
| スポーツ              | 33  | 4.0%  |
| 自然の中で遊んだりのんびりすること | 32  | 3.9%  |
| 友達と遊ぶこと           | 29  | 3.5%  |
| 自然を利用して遊ぶこと       | 25  | 3.0%  |
| 動物の観察やふれあいをすること   | 20  | 2.4%  |
| アトラクション・遊具で遊ぶこと   | 17  | 2.1%  |
| 自然の物を使って工作すること    | 16  | 1.9%  |
| 昆虫などを観察したり採集すること  | 15  | 1.8%  |
| 農林業               | 12  | 1.5%  |
| 旅行すること            | 10  | 1.2%  |
| 山や森林で遊ぶこと         | 10  | 1.2%  |
| そのほか              | 73  | 8.9%  |
| 無回答               | 489 | 59.5% |

※児童回答人数：822人

### 3.13.3 港区で大切にしたい自然

(自由記述)

港区で大切にしたい自然としては、有栖川宮記念公園や芝公園といった身近な公園が最多で、抽出数の約5割を占めました。次いで、八芳園や三菱開東閣などの古くからある民間緑地がありました。また、守りたい場所はない、わからないといった回答も多くみられました。

| 区分       | 抽出数 | %     |
|----------|-----|-------|
| 公園       | 439 | 53.4% |
| 庭園・私有地   | 122 | 14.8% |
| 学校       | 54  | 6.6%  |
| なし・わからない | 42  | 5.1%  |
| 概念       | 41  | 5.0%  |
| 台場       | 39  | 4.7%  |
| 大木・樹木    | 39  | 4.7%  |
| 海        | 22  | 2.7%  |
| 運河       | 20  | 2.4%  |
| 家        | 18  | 2.2%  |
| 地域       | 11  | 1.3%  |
| 社寺       | 9   | 1.1%  |
| 幼稚園・保育園  | 6   | 0.7%  |
| ビオトープ    | 2   | 0.2%  |
| 屋上緑化     | 1   | 0.1%  |
| そのほか     | 11  | 1.3%  |
| 無回答      | 62  | 7.5%  |
| 合計       | 876 | -     |

※児童回答人数：822人

#### ○大切にしたい理由

木や草がたくさんある、生きものがたくさん住んでいる、などの動植物が多いことが最も多くあげられました。こうしたなかには、港区は都会なので今ある自然を残したい、生きもののすみかを残したいといった意見も多くみられました。

また、よく遊ぶところだから、木がたくさんあって楽しいからなど、遊び場として大切であることが多く挙げられています。木の多い場所や池のある場所が楽しいというように、自然の中で遊べることに充実感があるという主旨の回答も多くみられました。

芝浦地区の児童からは、運河や海を大切にしたいという意見がとくに多く、その理由には地域のシンボルであることのほか、ゴミが多くて汚いことを改善したいという声が目立ちました。

### 3.13.4 20年後どうなっているか

(自由記述)

20年後、港区はどのようになっていると思うかについての回答を、生物多様性に対してポジティブまたはネガティブな未来予想に分類すると、下表のようになりました。生物多様性にとってポジティブな未来予想では、自然の増加、ゴミ問題の解消等、環境問題の解決にかかわる回答が多くみられました。ネガティブな未来予想では、自然の減少、開発の進行、環境問題の悪化に関わる回答が多くみられました。総合的には、生物多様性にとってネガティブな未来予想が、ポジティブな予想よりも大きく上回りました。

| 大分類            | ポジティブな未来予想 | ネガティブな未来予想 | ネガティブ、ポジティブの混ざった予想 | どちらともつかない予想 | 生物多様性には関係ない予想 |
|----------------|------------|------------|--------------------|-------------|---------------|
| 自然             | 203        | 229        | 7                  | 3           | 0             |
| 生物の変化          | 0          | 10         | 1                  | 0           | 0             |
| 海・運河・川         | 13         | 9          | 0                  | 0           | 1             |
| 温暖化            | 7          | 31         | 2                  | 0           | 0             |
| 大気汚染           | 5          | 33         | 1                  | 0           | 0             |
| ゴミの問題          | 12         | 24         | 1                  | 0           | 0             |
| 環境問題           | 3          | 7          | 1                  | 0           | 0             |
| 環境に配慮した活動      | 6          | 0          | 0                  | 0           | 0             |
| 環境問題・住環境       | 0          | 1          | 0                  | 0           | 0             |
| 住環境            | 11         | 8          | 0                  | 0           | 21            |
| 学校・塾           | 2          | 1          | 0                  | 0           | 5             |
| 遊び場            | 10         | 23         | 0                  | 0           | 13            |
| 遊び             | 1          | 2          | 0                  | 0           | 1             |
| 街              | 1          | 7          | 0                  | 0           | 11            |
| 開発             | 45         | 141        | 3                  | 3           | 83            |
| 科学技術           | 21         | 30         | 1                  | 0           | 35            |
| 人口             | 9          | 11         | 1                  | 0           | 11            |
| 少子高齢化          | 3          | 7          | 0                  | 0           | 6             |
| 外国人            | 0          | 2          | 0                  | 0           | 2             |
| ひと             | 5          | 3          | 0                  | 0           | 10            |
| 社会             | 0          | 1          | 0                  | 0           | 3             |
| 交通             | 6          | 14         | 1                  | 0           | 13            |
| 電気             | 3          | 2          | 1                  | 1           | 1             |
| 経済             | 5          | 4          | 1                  | 0           | 9             |
| 政治             | 0          | 2          | 0                  | 0           | 10            |
| 文化             | 1          | 1          | 0                  | 0           | 2             |
| 観光             | 3          | 1          | 0                  | 0           | 1             |
| 自然災害対策         | 2          | 0          | 0                  | 0           | 0             |
| 荒廃             | 1          | 6          | 0                  | 0           | 4             |
| シンボル(ランドマークなど) | 1          | 1          | 0                  | 0           | 4             |
| その他            | 3          | 3          | 0                  | 0           | 7             |
| 不明             | 11         | 5          | 1                  | 0           | 50            |
| 変化なし           | 0          | 2          | 0                  | 0           | 39            |
| 分からない          | 0          | 0          | 0                  | 0           | 7             |
| 未記入            | 0          | 0          | 0                  | 0           | 39            |
| 合計             | 393        | 621        | 22                 | 7           | 388           |

※児童回答人数：822人

### 3.14 中学校 2 年生における自然との関わりや意見

#### 3.14.1 好きな遊び

(自由記述)

回答としては、ゲームを含む屋内でのあそびが最も多く得られました。次いで、サッカーやテニスなどのスポーツを含んだボールを使ったあそび、ゲームを含む屋内でのあそびの順に回答が多く得られました。

小学生 5 年生から得られた回答と比較して、ある程度ルールが決まったあそびが好まれる傾向がみられました。スポーツや屋外でのあそびが比較的多くみられた一方で、山登りやキャンプなどを含んだ自然あそびの割合は低い結果となりました。

| カテゴリ           | 抽出数 | %     |
|----------------|-----|-------|
| 屋内でのあそび        | 180 | 33.8% |
| ボールを使ったあそび     | 165 | 31.0% |
| 鬼ごっこ           | 111 | 20.8% |
| 鬼ごっこを除く屋外でのあそび | 90  | 16.9% |
| 自然あそび          | 40  | 7.5%  |
| そのほか           | 358 | 67.2% |
| 無回答            | 27  | 5.1%  |
| 合計             | 944 | -     |

※生徒回答人数：533 人

### 3.14.2 これまでに体験したことのある自然体験とこれからしてみたい自然体験

(複数回答・自由記述)

これまでに体験したことのある自然体験とこれからしてみたい自然体験について、選択肢に対する回答数は下表のとおりです。

なお、「またしたい」は「これまでにしたことがある」と「これからしてみたい」の両方に○を付けた場合の回答者数を示します。

| 選択肢                  | これまでに<br>したことがある | これから<br>してみたい | またしたい |
|----------------------|------------------|---------------|-------|
| 虫採り                  | 392              | 25            | 6     |
| 植物を使った遊び             | 321              | 61            | 4     |
| 野鳥を見たり、野鳥の声を聞くこと     | 291              | 82            | 11    |
| 木登り                  | 299              | 58            | 1     |
| 泥んこ遊び                | 390              | 40            | 17    |
| 海や川で貝をとったり魚をつったりすること | 366              | 32            | 8     |
| 海や川で泳ぐこと             | 353              | 61            | 32    |
| 落ち葉を使った遊び            | 424              | 27            | 23    |
| 夜空いっぱい輝く星をゆっくり見ること   | 320              | 107           | 36    |
| キャンプ                 | 308              | 125           | 26    |
| 山登り                  | 431              | 17            | 28    |
| 無回答                  |                  |               | 3     |

※生徒回答人数：533人

これからしてみたいこととの記述回答としては、下表のような結果が得られました。

得られた回答の中で、釣りやラフティング、カヌーなどのアウトドアスポーツが最も多く、次いで自然の中で遊んだりのんびりすること、スポーツ、自然を利用して遊ぶことの順で多い結果となりました。

| 遊びの内容             | 抽出数 | %     |
|-------------------|-----|-------|
| アウトドアスポーツ         | 35  | 6.6%  |
| 自然の中で遊んだりのんびりすること | 22  | 4.1%  |
| スポーツ              | 17  | 3.2%  |
| 自然を利用して遊ぶこと       | 13  | 2.4%  |
| 動物の観察やふれあいをすること   | 12  | 2.3%  |
| 友達と遊ぶこと           | 8   | 1.5%  |
| 旅行すること            | 7   | 1.3%  |
| 農林業               | 3   | 0.6%  |
| アトラクション・遊具で遊ぶこと   | 2   | 0.4%  |
| 自然の物を使って工作すること    | 1   | 0.2%  |
| そのほか              | 20  | 3.8%  |
| 無回答               | 402 | 75.4% |

※生徒回答人数：533人

### 3.14.3 港区で大切にしたい自然

(自由記述)

港区で大切にしたい自然として得られた回答は、有栖川宮記念公園や芝公園といった身近な公園が最多で、全体の7割を超えました。次いで、学校、御所・庭園・私有地などの民間緑地が回答として多く得られました。また、守りたい場所はない、わからないといった回答も、小学生に対して行ったアンケート同様に多くみられました。

| 区分        | 抽出数 | %     |
|-----------|-----|-------|
| 公園        | 277 | 52.0% |
| なし・わからない  | 75  | 14.1% |
| 学校        | 64  | 12.0% |
| 御所・庭園・私有地 | 24  | 4.5%  |
| 海         | 21  | 3.9%  |
| 大木・樹木     | 19  | 3.6%  |
| そのほか      | 18  | 3.4%  |
| 概念        | 15  | 2.8%  |
| 台場        | 8   | 1.5%  |
| 地域        | 7   | 1.3%  |
| 運河        | 6   | 1.1%  |
| 家         | 5   | 0.9%  |
| ビオトープ     | 3   | 0.6%  |
| 社寺        | 2   | 0.4%  |
| 無回答       | 142 | 26.6% |
| 合計        | 454 | -     |

※生徒回答人数：533人

#### ○大切にしたい理由

木や草がたくさんある、生きものがたくさん住んでいる、などの動植物が多いことが最も多くあげられました。

これらの得られた回答には、都会の中にある数少ない自然を残したい、自然と触れ合える場所を残したいといったものも多くみられました。

そのほかには、桜がきれいだから、緑があると夏すずしいからなどといった景観や快適さなどを求めた回答がみられたほか、CO2削減や鳥たちにとって大切だからといった回答もみられました。

### 3.14.4 20年後どうなっているか

(自由記述)

20年後、港区はどのようになっていると思うかについての回答を、生物多様性に対してポジティブまたはネガティブな未来予想に分類すると、下表のようになりました。

生物多様性にとってポジティブな未来予想では、自然の増加、住環境の改善、ゴミ問題の解消等、環境問題の解決にかかわる回答が多くみられました。

ネガティブな未来予想では、自然の減少、開発の進行、環境問題の悪化に関わる回答が多くみられました。総合的には、生物多様性にとってネガティブな未来予想が、ポジティブな予想よりも大きく上回りました。

これらの傾向は、小学生に対して行ったアンケートでも同様にみられました。

| 大分類             | ポジティブな未来予想 | ネガティブな未来予想 | ネガティブ、ポジティブの混ざった予想 | どちらともつかない予想 | 生物多様性には関係ない予想 |
|-----------------|------------|------------|--------------------|-------------|---------------|
| 自然              | 80         | 123        | 11                 | 13          | 1             |
| 生物の変化           | 0          | 0          | 0                  | 0           | 0             |
| 海・運河・川          | 3          | 3          | 1                  | 0           | 0             |
| 温暖化             | 2          | 14         | 1                  | 0           | 2             |
| 大気汚染            | 3          | 16         | 1                  | 0           | 0             |
| ゴミの問題           | 8          | 12         | 2                  | 0           | 0             |
| 環境問題            | 2          | 2          | 0                  | 0           | 1             |
| 環境に配慮した活動       | 2          | 0          | 0                  | 0           | 1             |
| 環境問題・住環境        | 1          | 0          | 0                  | 0           | 0             |
| 住環境             | 11         | 10         | 2                  | 1           | 25            |
| 学校・塾            | 1          | 2          | 0                  | 0           | 1             |
| 遊び場             | 1          | 7          | 0                  | 0           | 10            |
| 遊び              | 0          | 2          | 0                  | 0           | 3             |
| 街               | 1          | 0          | 2                  | 0           | 3             |
| 開発              | 5          | 63         | 8                  | 12          | 62            |
| 科学技術            | 4          | 10         | 4                  | 1           | 18            |
| 人口              | 2          | 11         | 1                  | 2           | 9             |
| 少子高齢化           | 2          | 1          | 0                  | 0           | 1             |
| 外国人             | 0          | 1          | 0                  | 0           | 2             |
| ひと              | 1          | 2          | 0                  | 2           | 3             |
| 社会              | 0          | 1          | 0                  | 1           | 1             |
| 交通              | 1          | 12         | 0                  | 0           | 3             |
| 電気              | 2          | 1          | 1                  | 0           | 1             |
| 経済              | 0          | 2          | 0                  | 0           | 9             |
| 政治              | 0          | 0          | 0                  | 1           | 3             |
| 文化              | 0          | 0          | 0                  | 0           | 0             |
| 観光              | 0          | 0          | 0                  | 0           | 1             |
| 自然災害対策          | 0          | 0          | 2                  | 0           | 0             |
| 荒廃              | 0          | 3          | 0                  | 0           | 19            |
| シンボル (ランドマークなど) | 0          | 0          | 0                  | 0           | 1             |
| その他             | 2          | 1          | 1                  | 0           | 2             |
| 不明              | 5          | 3          | 1                  | 0           | 31            |
| 変化なし            | 4          | 1          | 0                  | 1           | 50            |
| 分からない           | 0          | 0          | 0                  | 0           | 12            |
| 未記入             | 0          | 0          | 0                  | 0           | 37            |
| 合計              | 143        | 303        | 38                 | 34          | 319           |

※生徒回答人数：533人